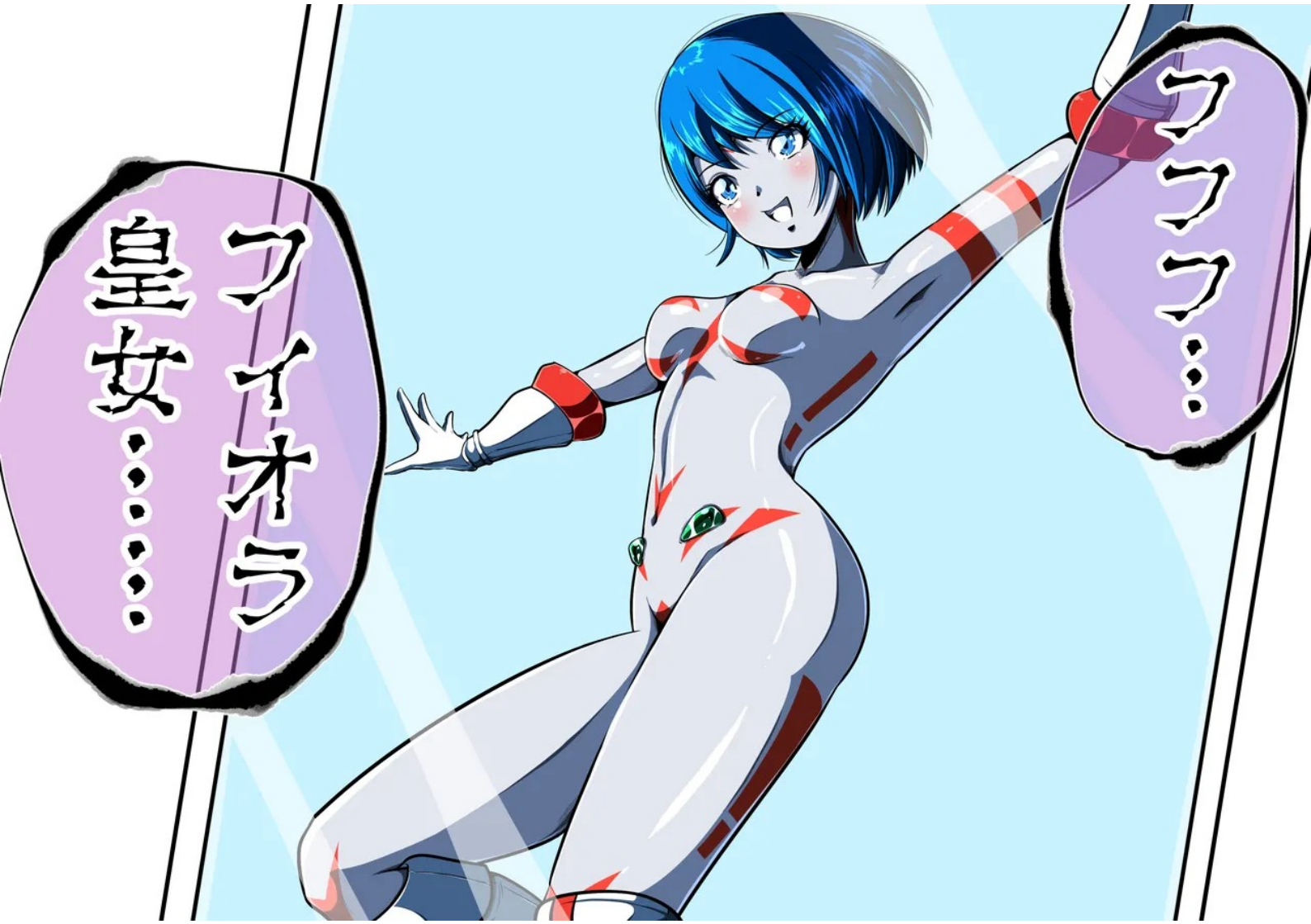
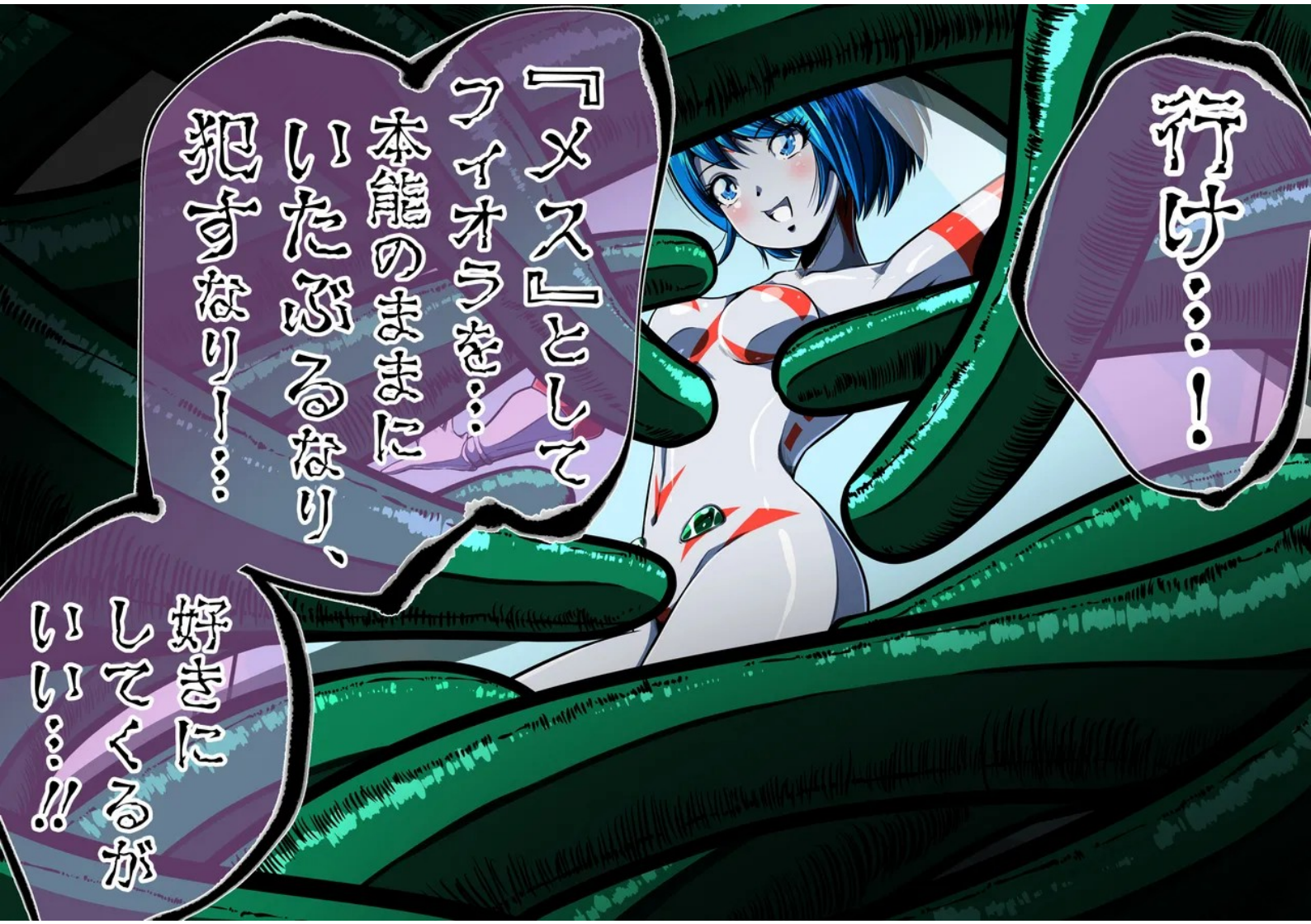
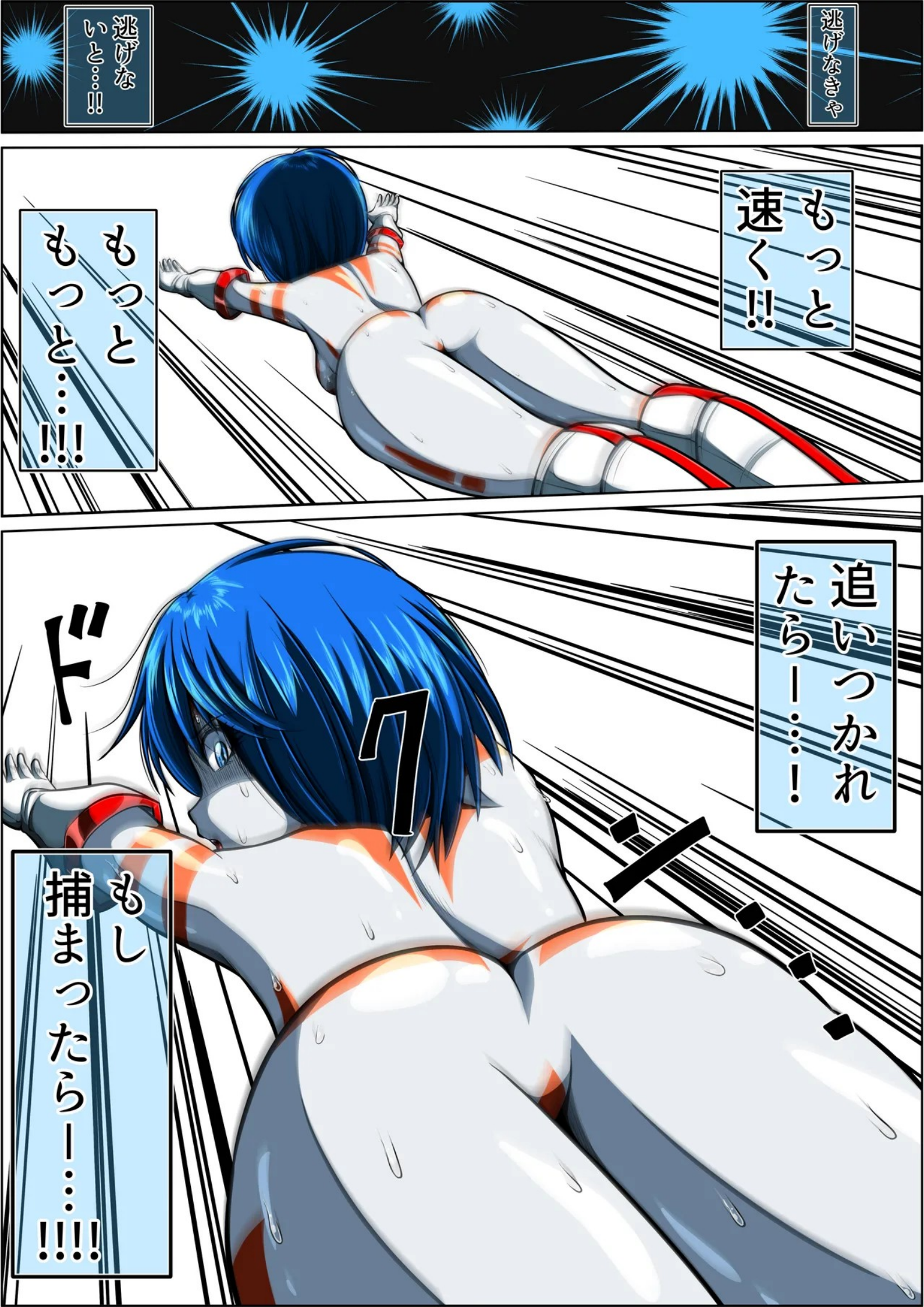

フフフ…
フィオラ皇女……

フフ、そうか
そうか…
早くこの女が
欲しいか…
フフフフ…
フフフッ…

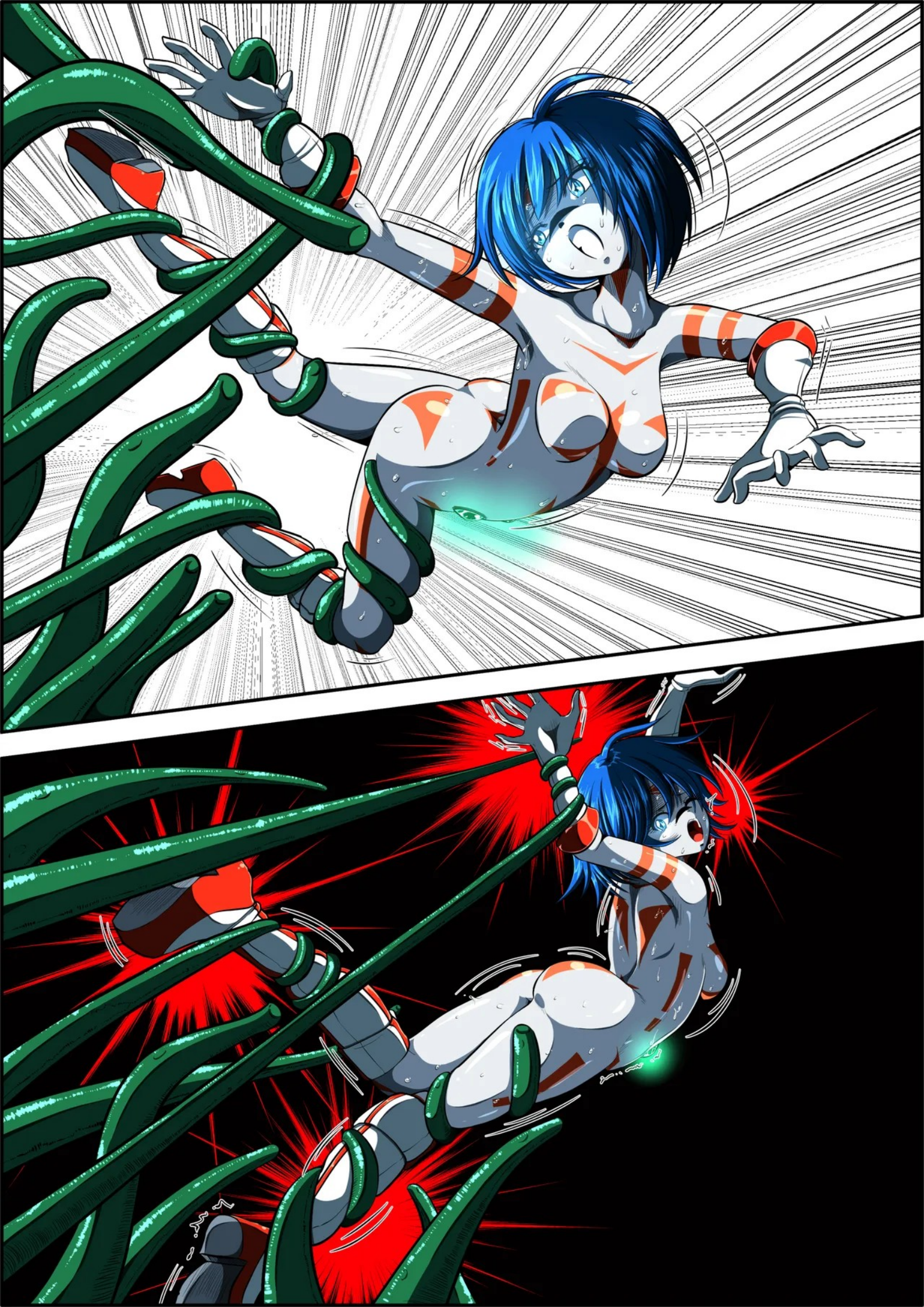
フフフ…
たかが写真だけで
これほど集まって
くるとはな
考えるに
おぞましい
ヤツらよ
もはや、
完全に標的として
認識している…
同情するよ
フフフ…！

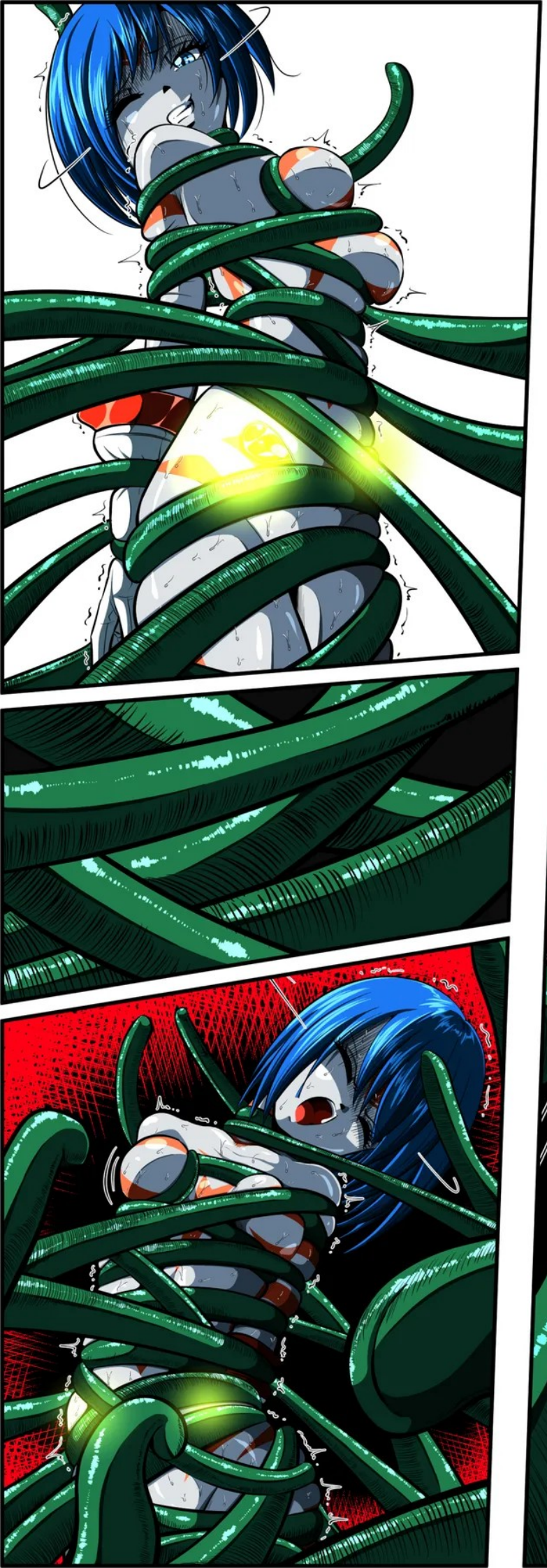

行け…！
『メス』としてフィオラを…本能のままにいたぶるなり、犯すなり…
好きにしてくるがいい…!!

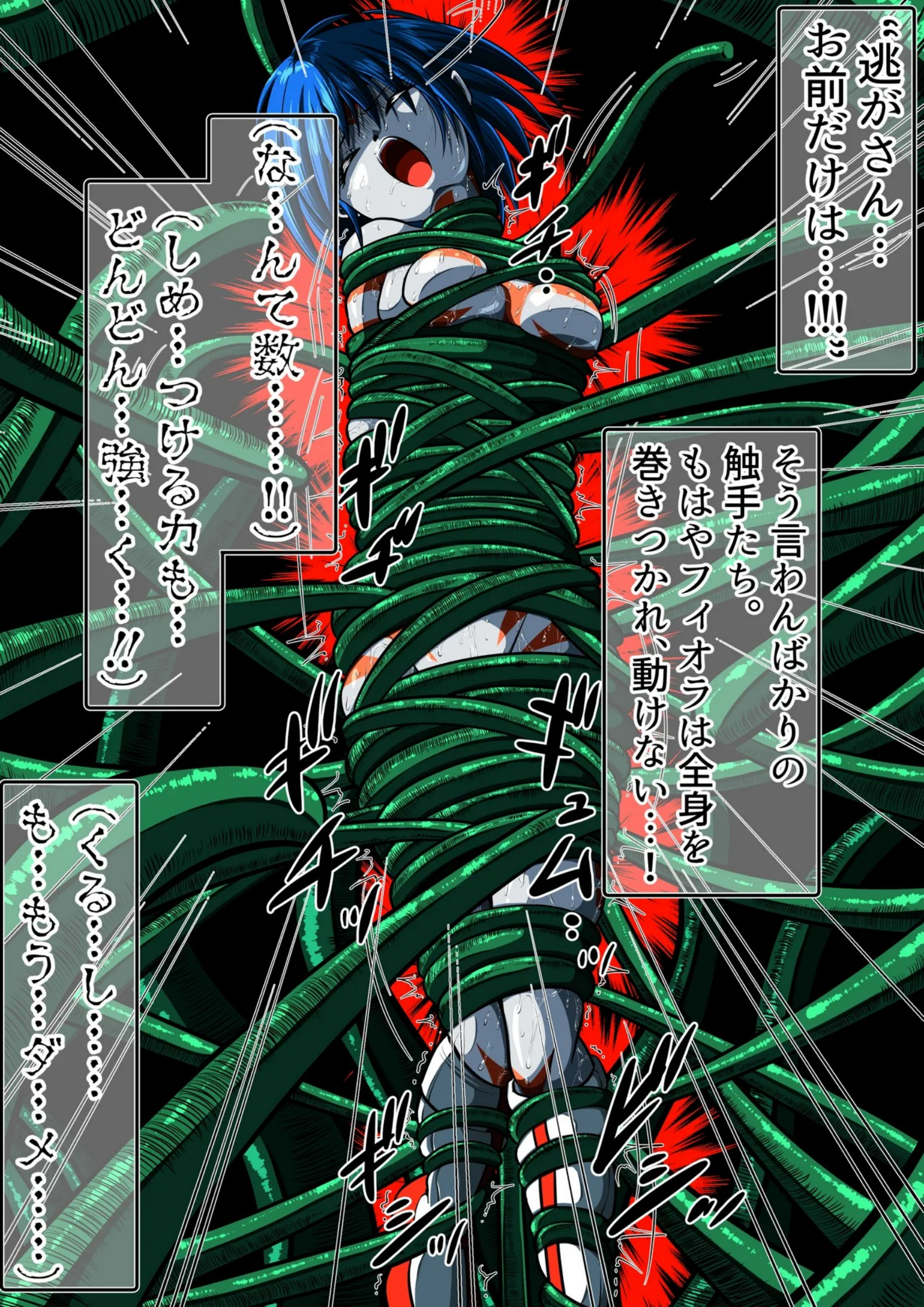

逃げなきゃ
逃げないと…!!
もっと速く!!
もっともっと…!!!
追いつかれたらー…!
ドク
もし捕まったらー…!!!!

ま…
また…!!
いつかの
ように…!!!

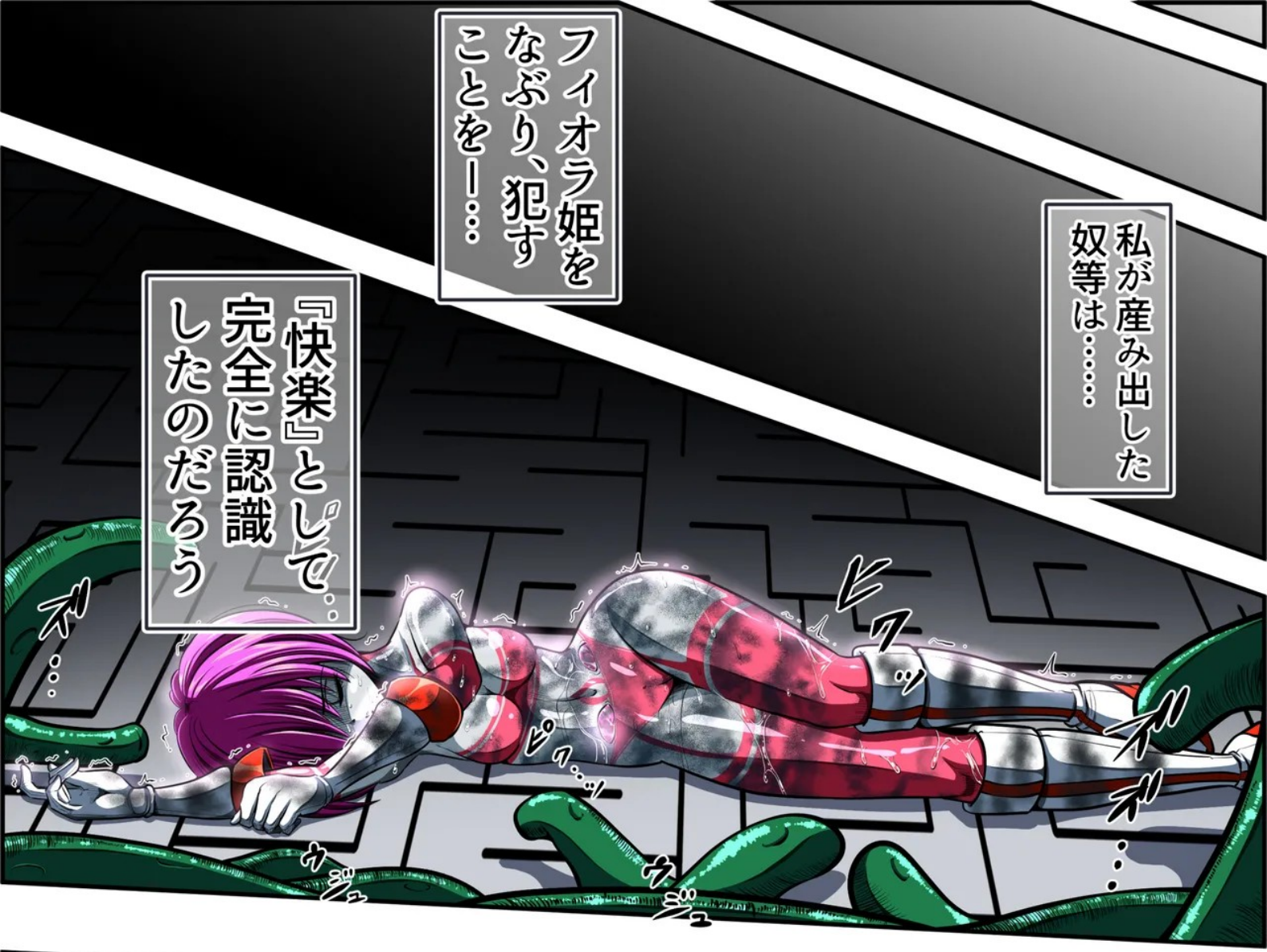
必死の表情で飛行するフィオラ姫
彼女は今ーー！…
おぞましい触手たちから
なんとか逃れようとしていた
飛行速度には自信のあったはずの姫だったがー！…
触手たちのスピードは
彼女の想像を…
遥かに超えていた…

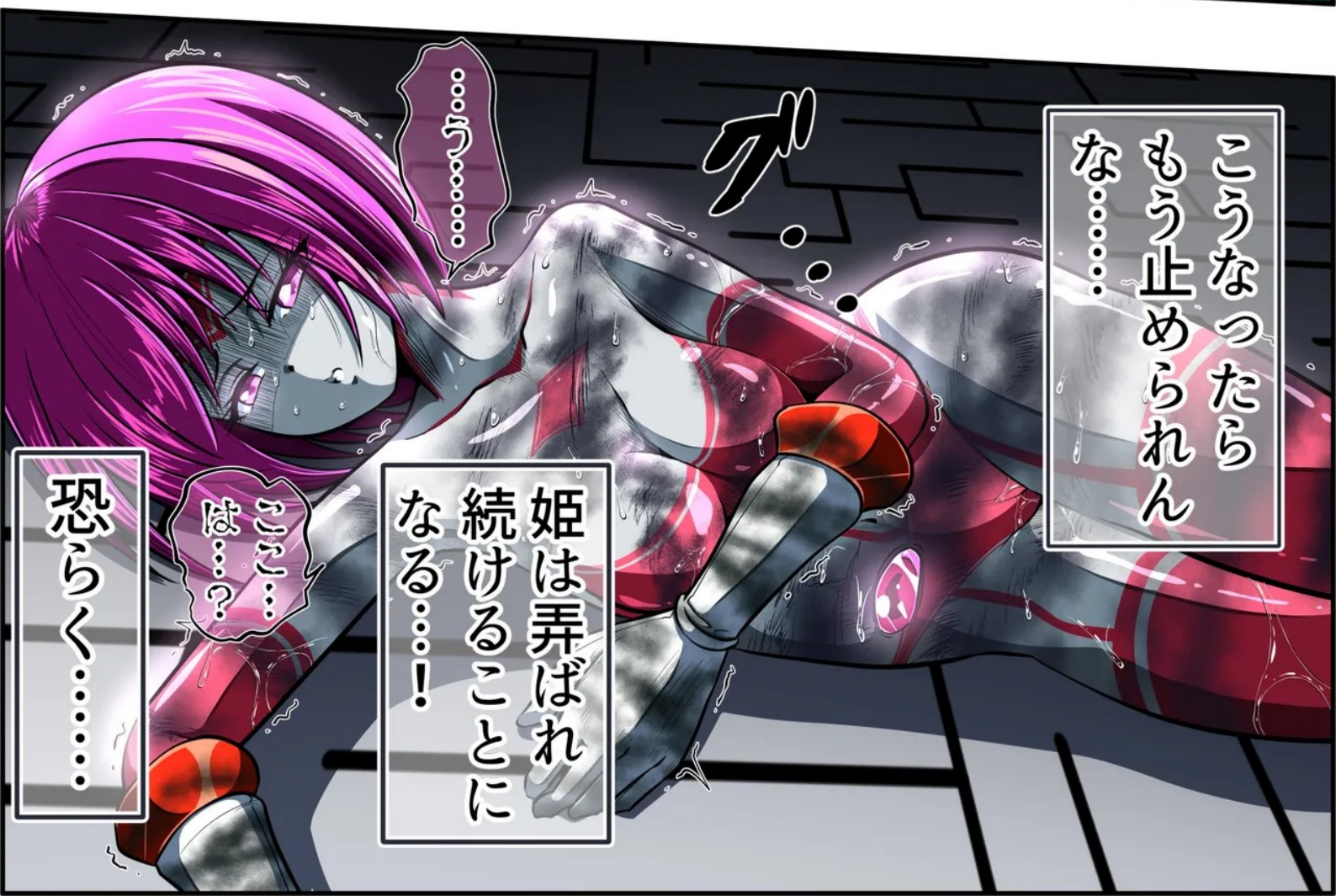


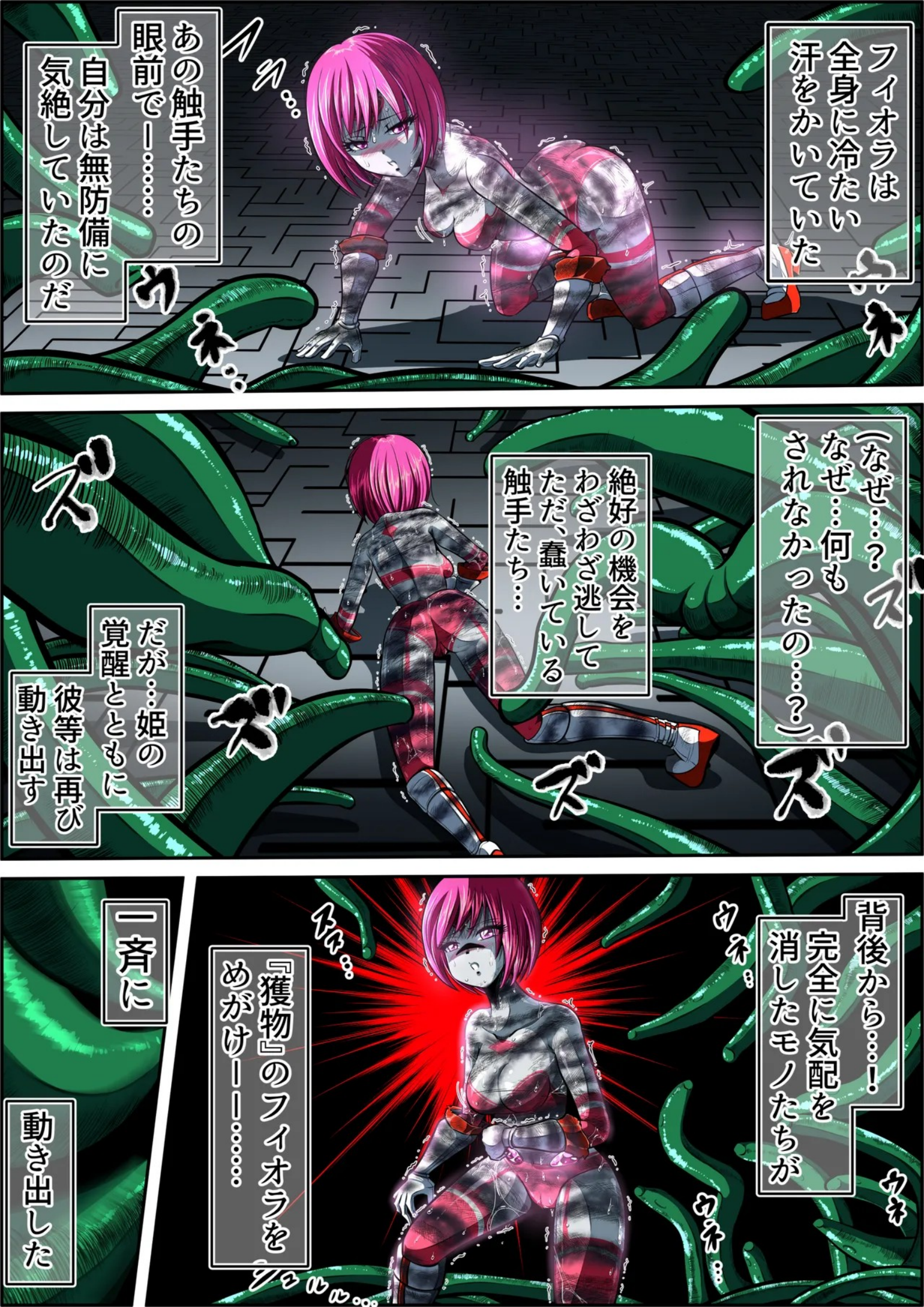


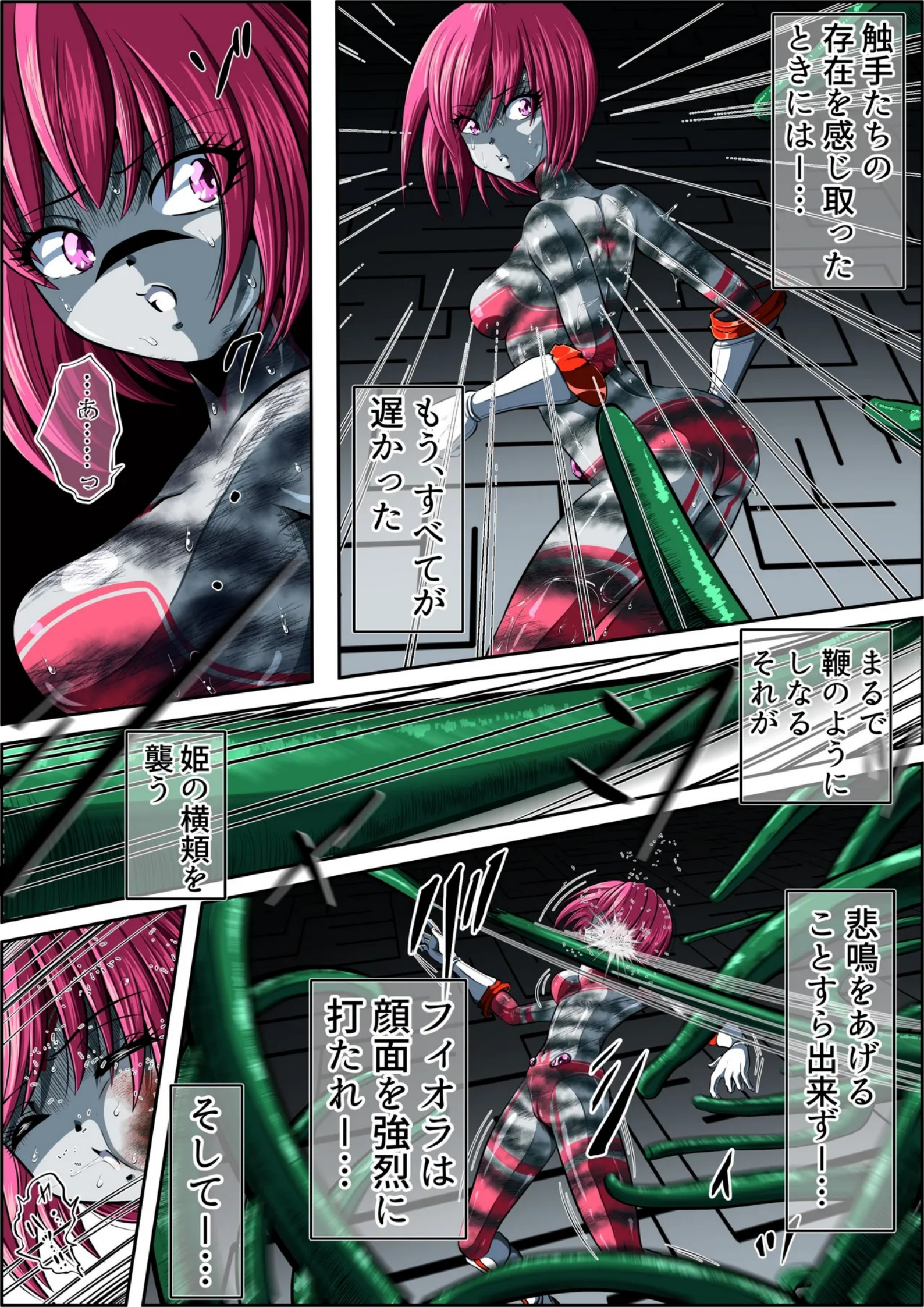

〝逃がさん…
お前だけは…!!!〟
そう言わんばかりの
触手たち。
もはやフィオラは全身を
巻きつかれ、動けない…!
ギチ…
ギチ…
ギチ…
ギチ…
ビシ…
ビシ…
（な…んて数……!!）
（しめ…つける力も…
どんどん…強…く…!!）
（くる…し……
も…もう…ダ…メ……）

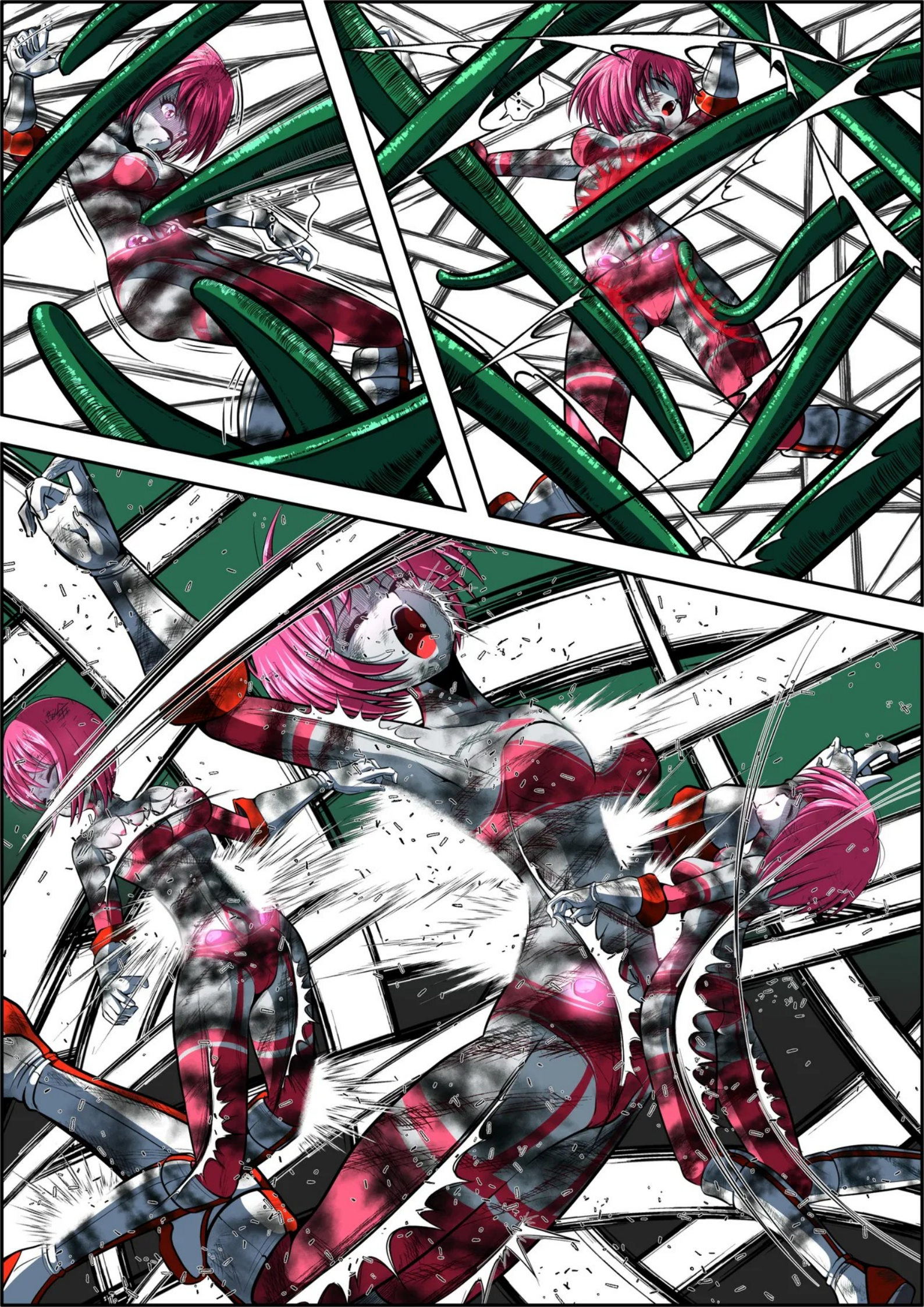
……奴等め
いよいよ個体独自に動き出した…か
…と、いうことは…いよいよ…あの姫を使って……
ウネ…
ウネ…
ウネ…
ククク…こいつは面白くなる…
ズズズ…

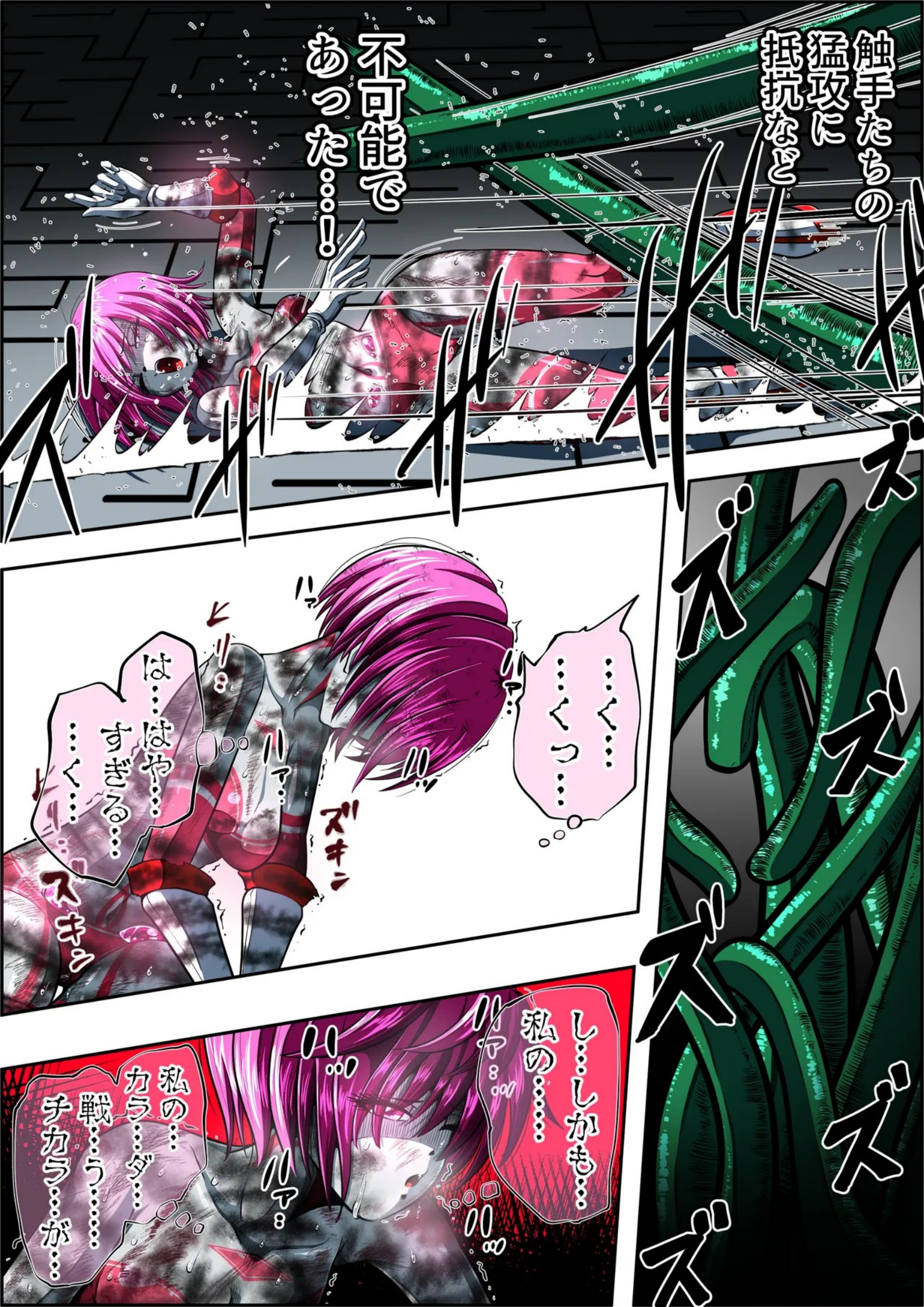

私が産み出した奴等は……
フィオラ姫をなぶり、犯すことをー…
『快楽』として完全に認識したのだろう
ヒクッ
ビクッ
ウジュ


こうなったらもう止められんな……
…う……
ここ…は…？
姫は弄ばれ続けることになる…！
恐らく……

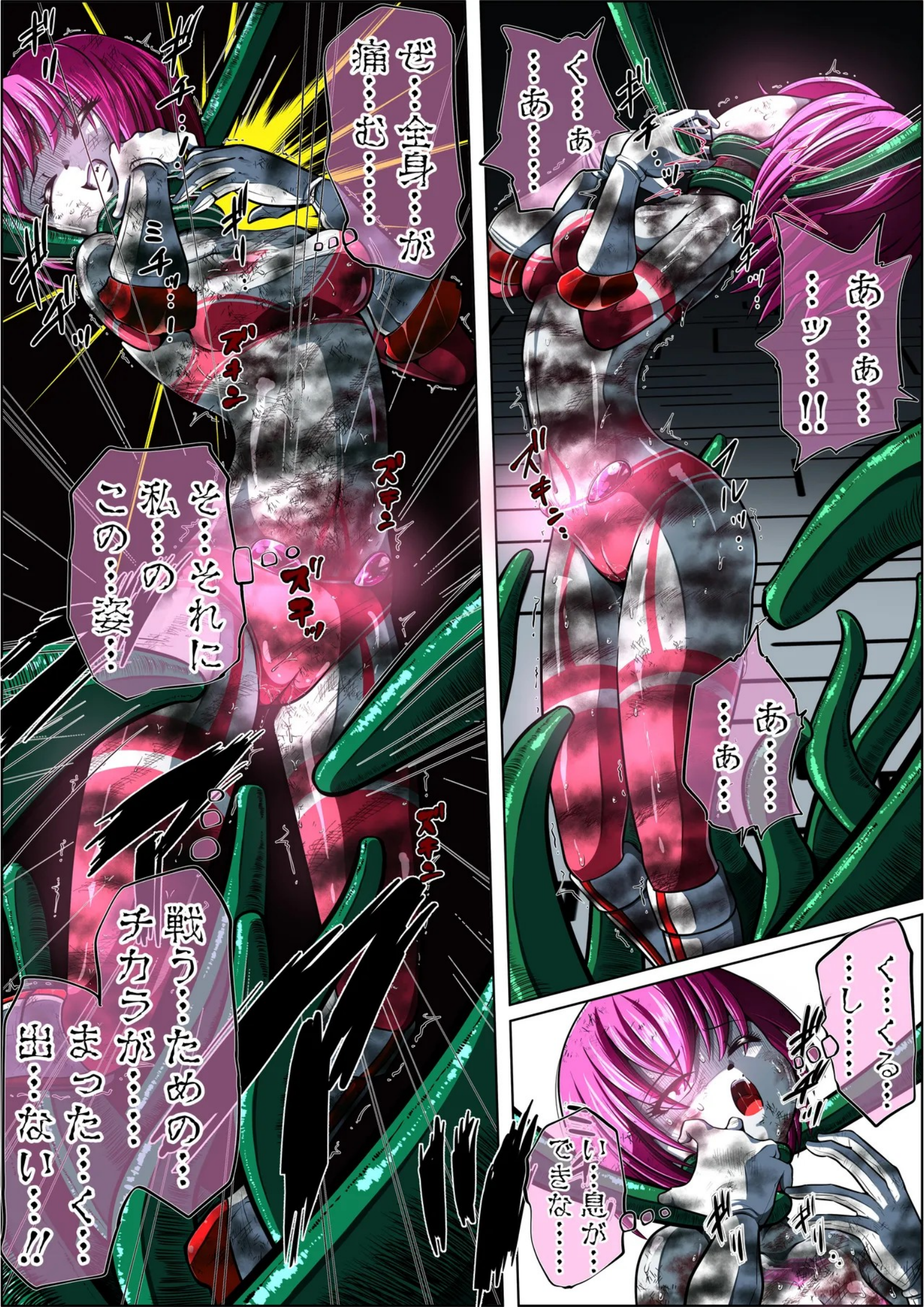

フィオラは
全身に冷たい
汗をかいていた
あの触手たちの
眼前でー……
自分は無防備に
気絶していたのだ
（なぜ…？
なぜ…何も
されなかったの…？）
絶好の機会を
わざわざ逃して
ただ、蠢いている
触手たち…
だが…姫の
覚醒とともに
彼等は再び
動き出す
背後から…！
完全に気配を
消したモノたちが
『獲物』のフィオラを
めがけー……
一斉に
動き出した

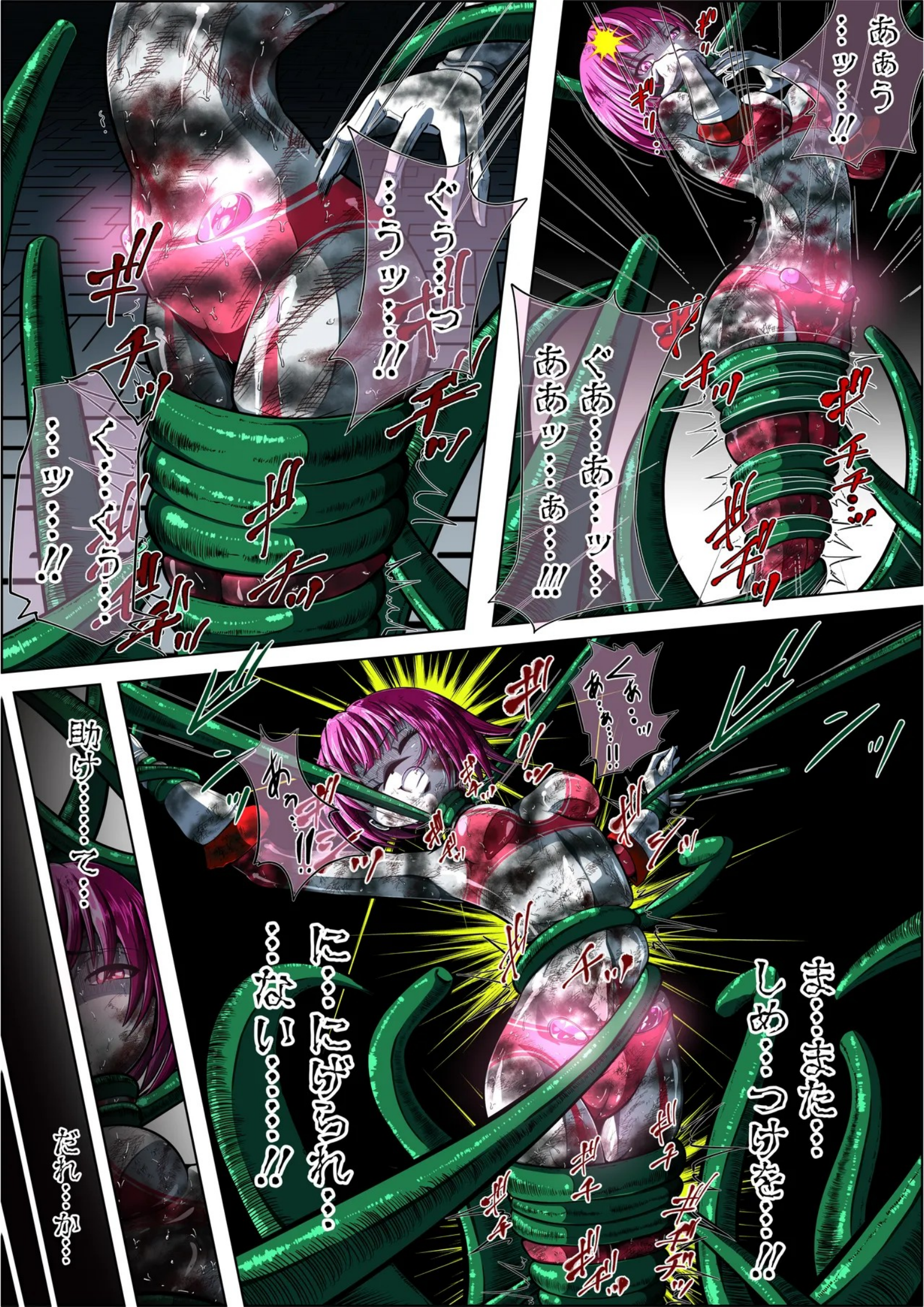

触手たちの
存在を感じ取った
ときにはー…
もう、すべてが
遅かった
…あ……っ
まるで
鞭のように
しなる
それが
姫の横頬を
襲う
悲鳴をあげる
ことすら出来ずー…
フィオラは
顔面を強烈に
打たれー…
そしてー…

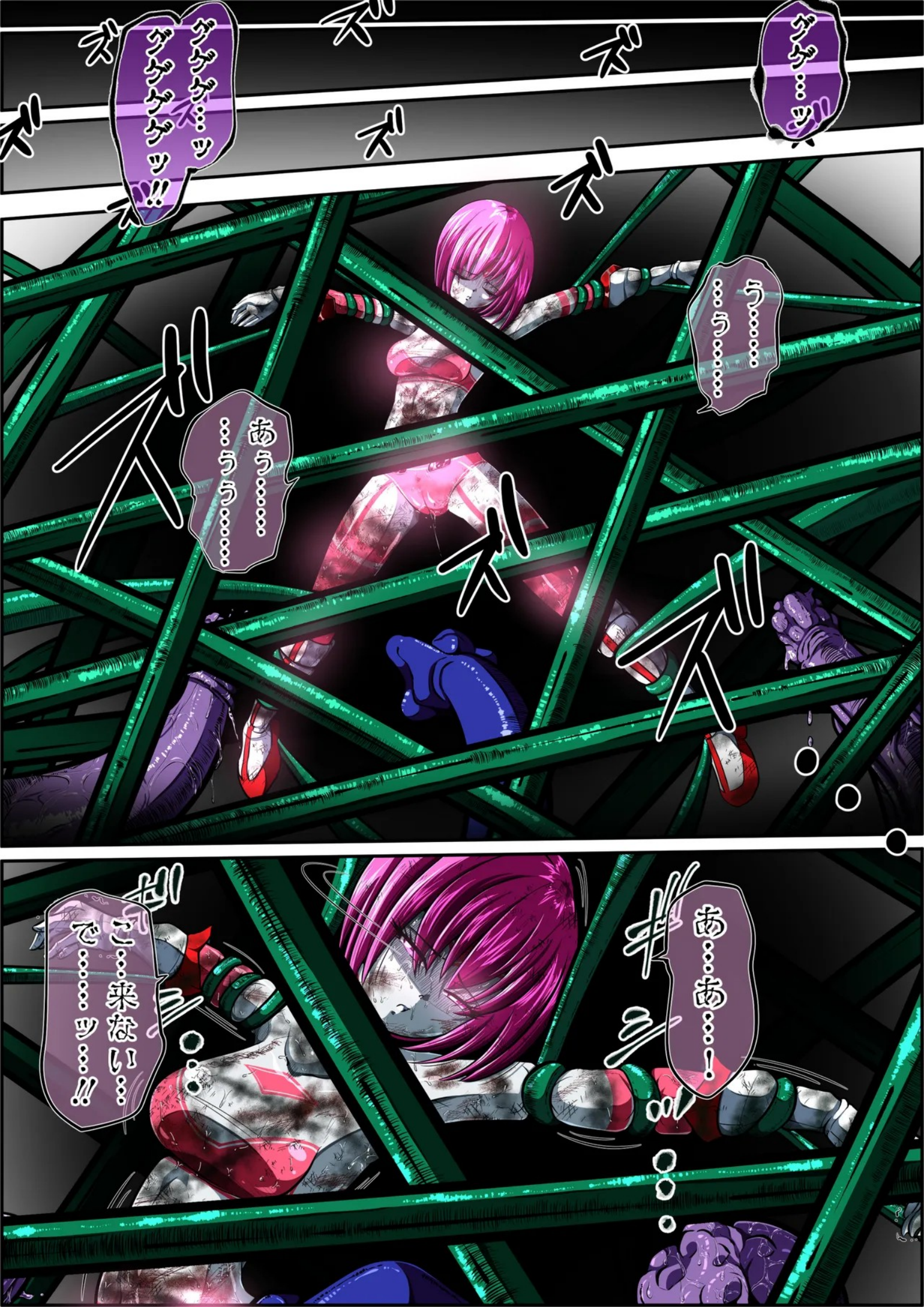



触手たちの猛攻に抵抗など…
不可能であった…!
ズズズズズ
…く…
…くっ…
ハァ…
ハァ…
ズキン
は…はや…すぎる…
…く…
ハァ…
スキン
し…しかも…私の…
ハァ…
私の…カラ…ダ…戦…う…チカラ…が…

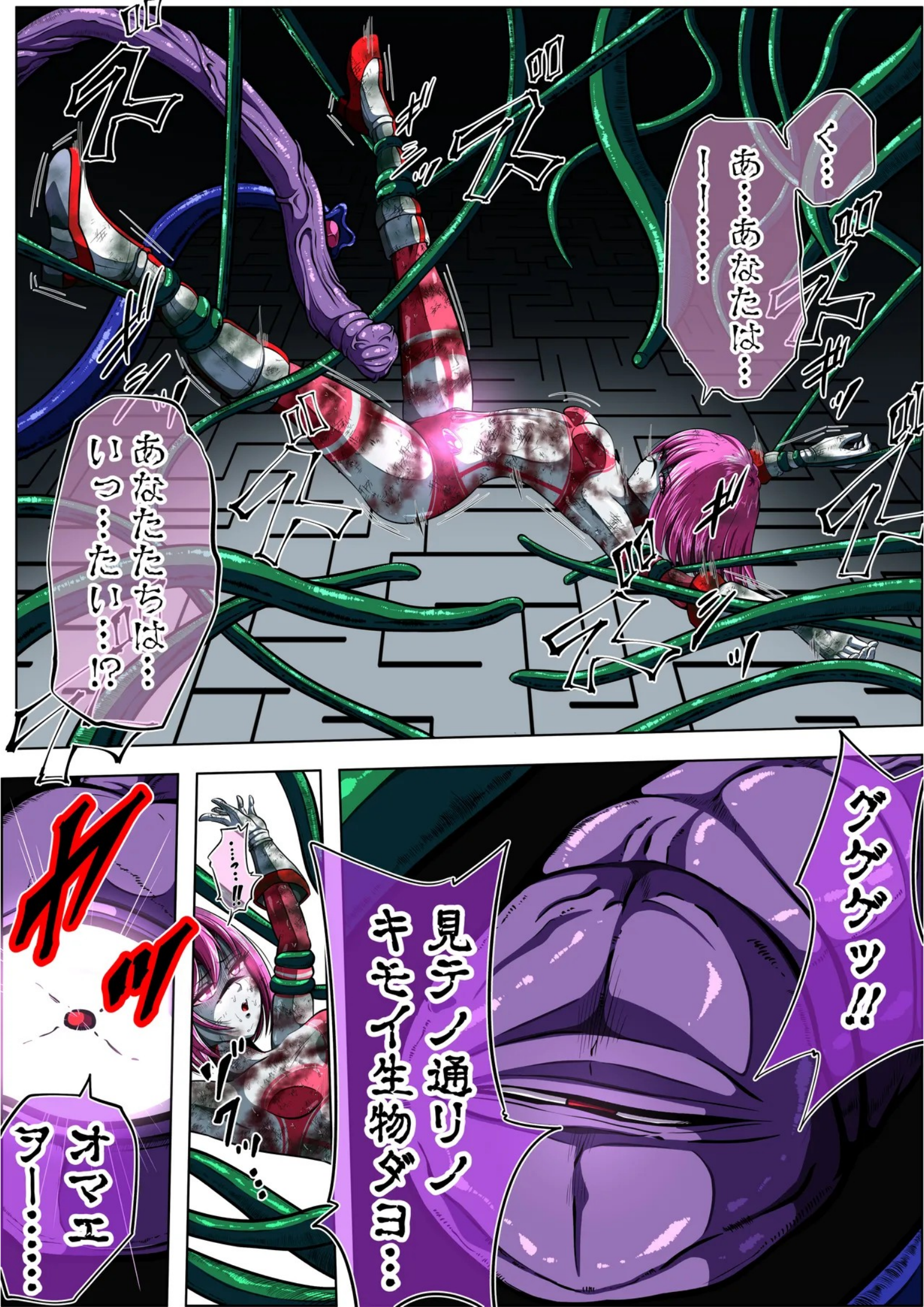
ビクンビクン
キィ
う…あ…
…あ……
は…あ…
…あッ……!!
ま…まるで…
い…いたぶる
ように……
キィッ
く…くる…
し……!!
キィ
キィッ
キィ
ど…どう……
すれ…ば…

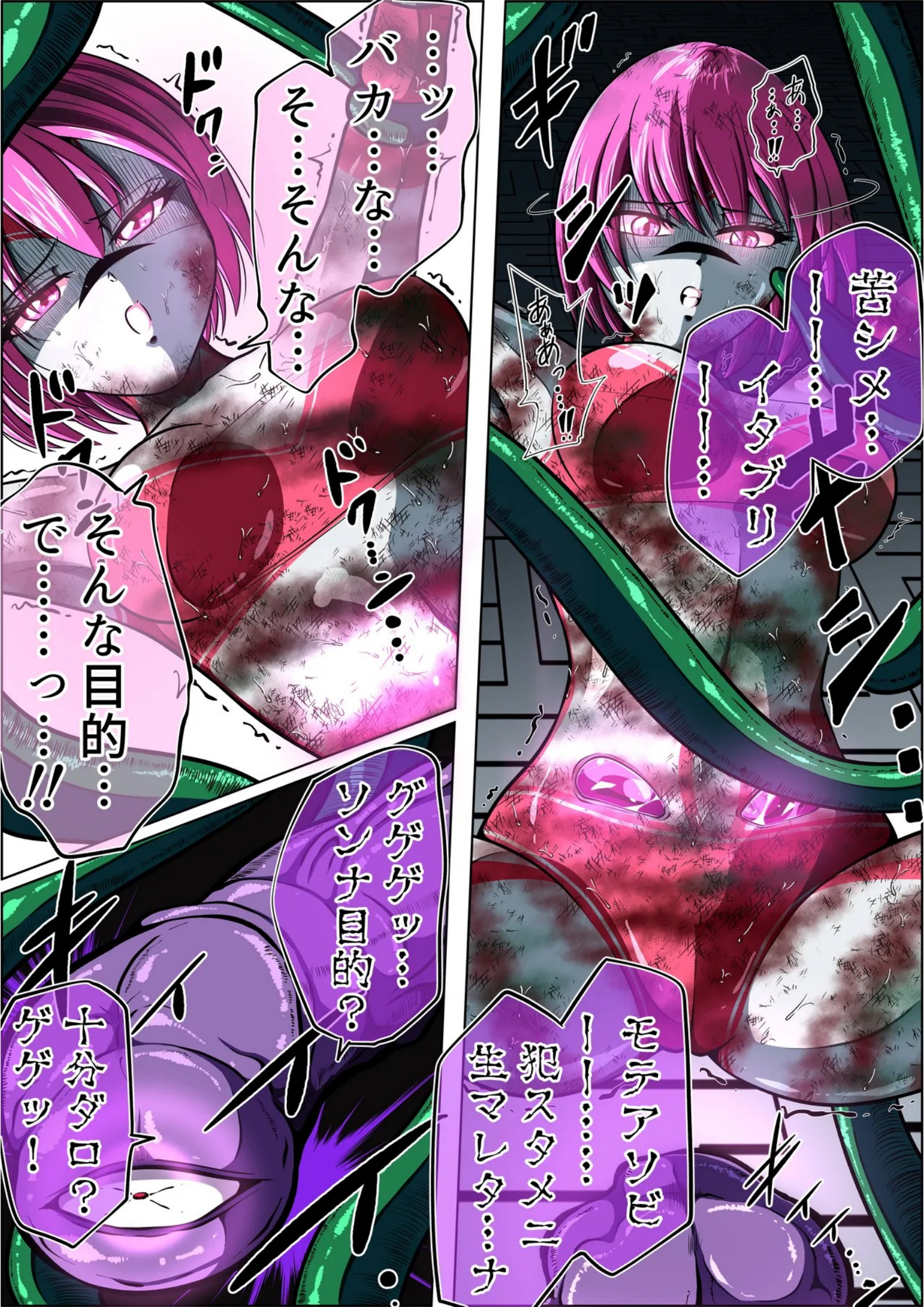

あ…あ…
…ッ…!!
ギチ…ッ
く…あ
…あ……
ギリ…
ズキン
ズキン
あ……
…あ…
く…くる…
…し……
ギリ…!!
い…息が…
できな……
ギリ…
ギリ…
ギチ…!
ミチッ…!
ギリ…
ギリ…
ズキン
ズキン
ズキン
ズキン
ぜ…全身…が
痛…む……
そ…それに
私…の
この…姿…
戦う…ための…
チカラが……
また…く…
出…ない…!!

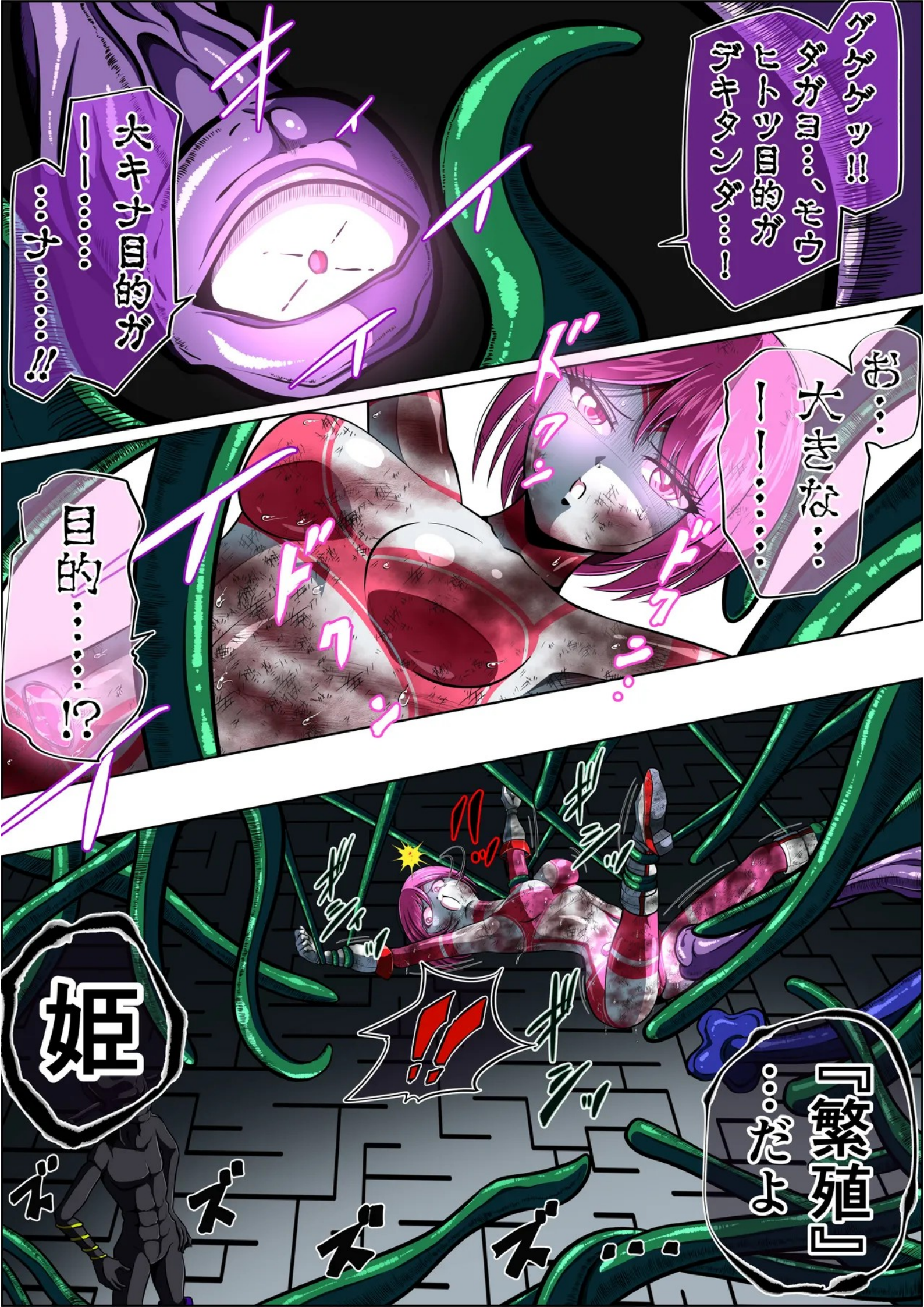

あぁう…ッ…!!
ギリ…
ギリ…
ぐぁ…あ…ッ…あぁッ…あ…!!!
ぐぅ…うッ…!!
ぐ…ぐぅ…ッ…!!
ま…また…しめ…つけな…!!
に…にげられ…ない…!!
あ…ぁ…!!
助け…て…
だれ…か…

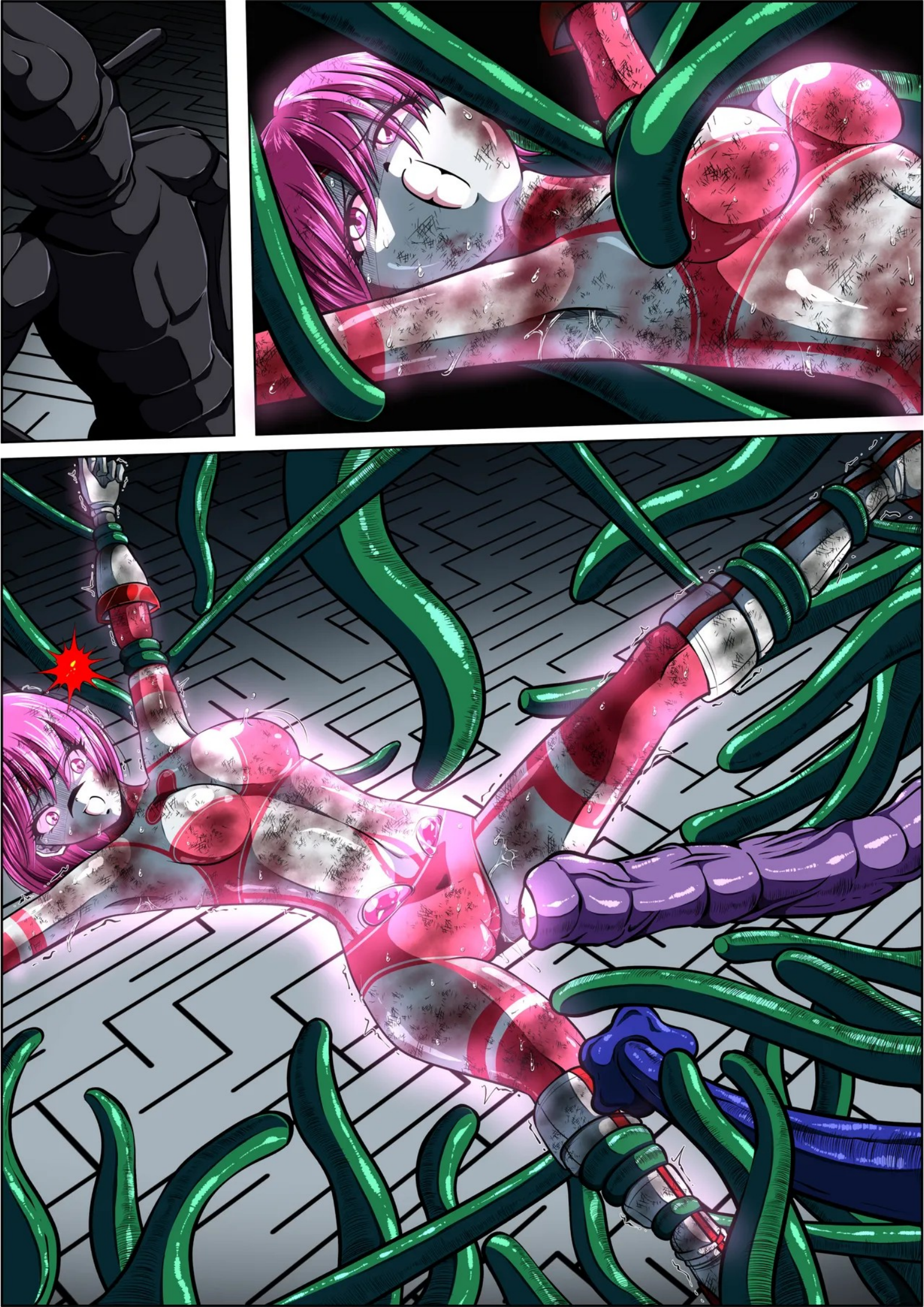

グッ…ッ
グッグッ…ッ
グッグッグッ!!
う……
…う……
あう……
…うう……
あ…あ…!
こ…来ない…
で……ッ…!!

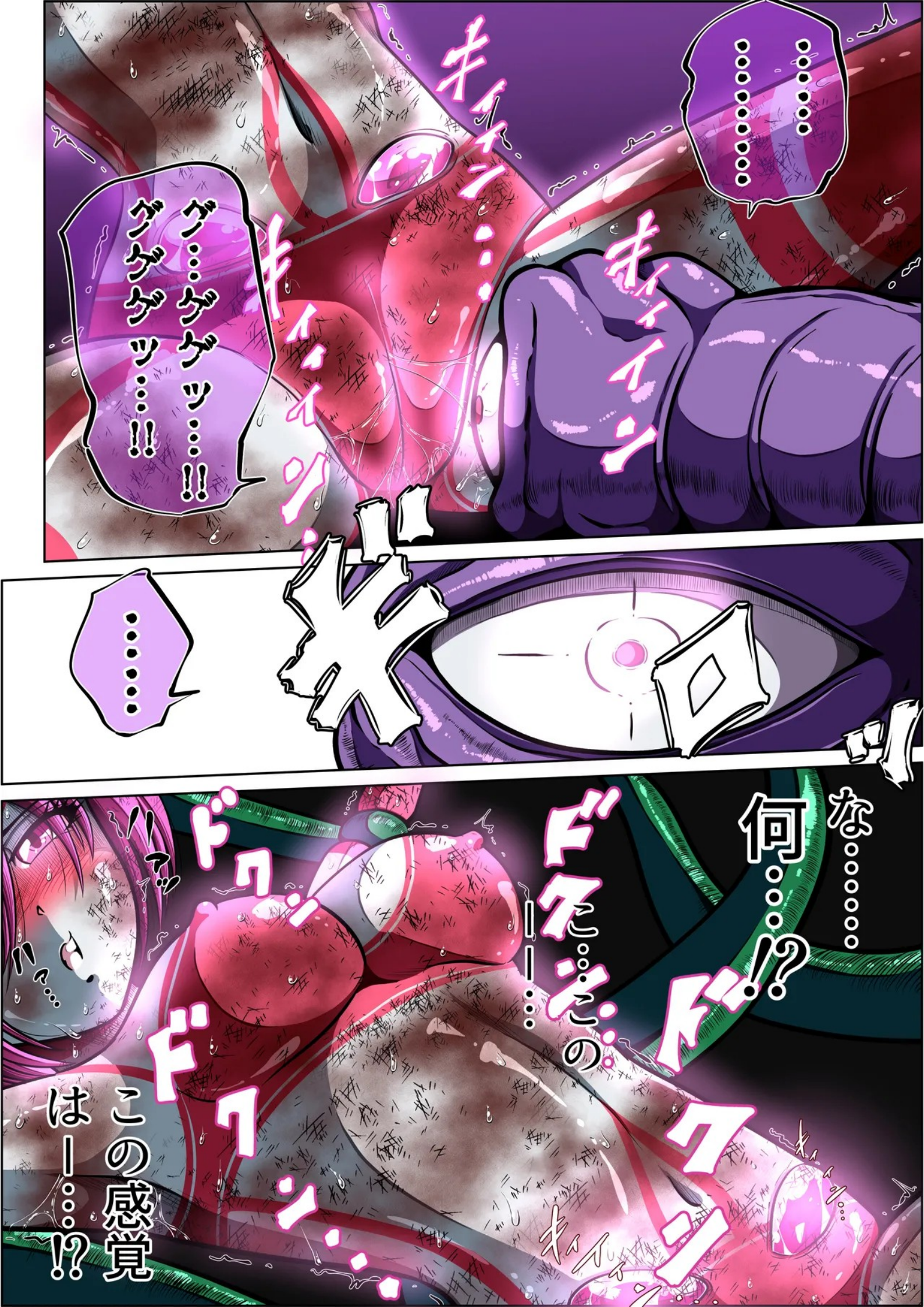
…グ…
グゲゲッ…
グゲゲゲッ…
!!
ズルル
うあああッ!!
ギチ…
ドウダ？
我々ノカー…
（チカラ）
思イ知ッタカ？
フィオラ皇女…
グゲゲ…
!!
!!
!!
ギチ…

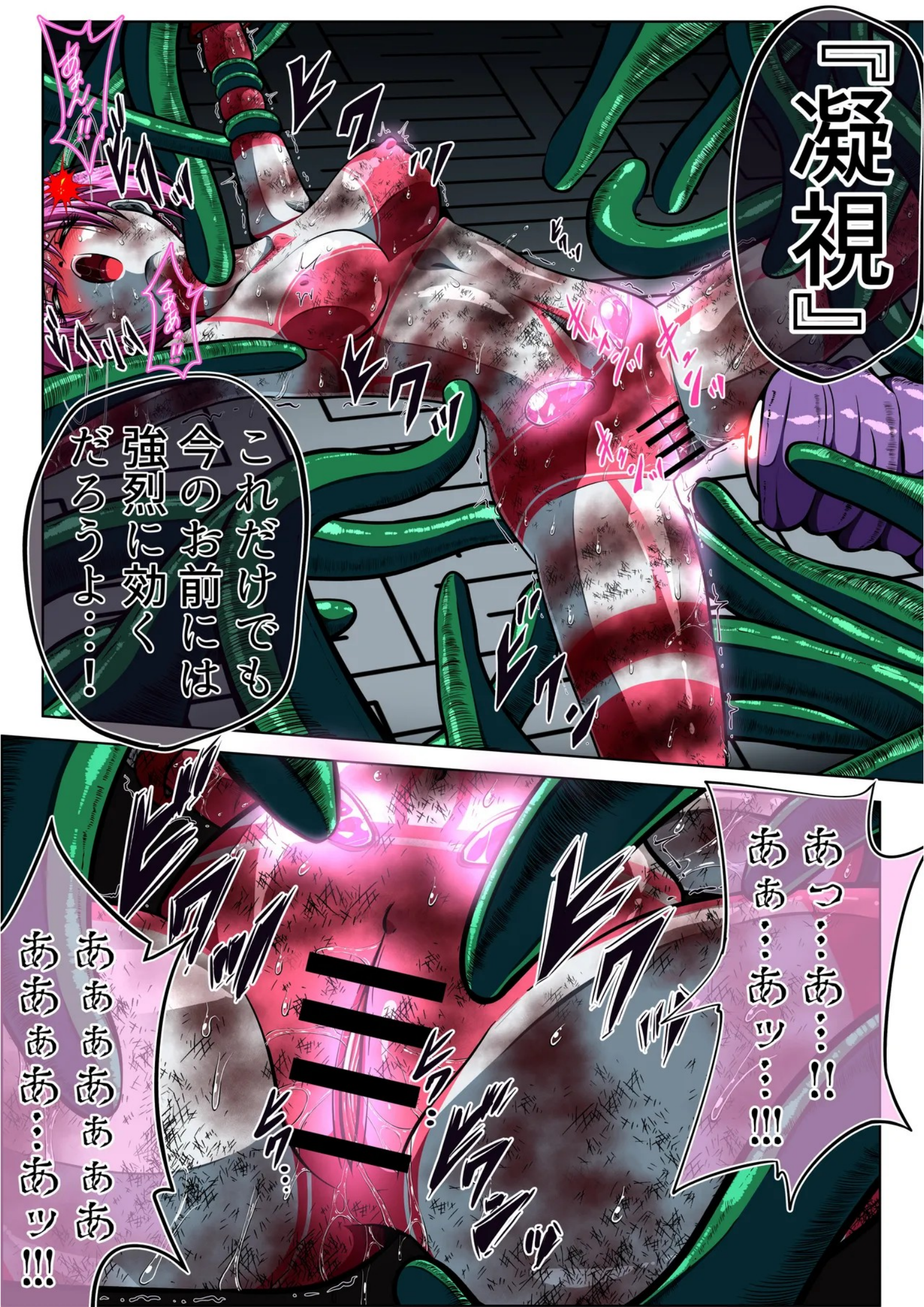

く…
あ…あなたは…
！！……
ギッ
ギッ
あなたたちは…
いっ…たい…!?
グ…グッ!!
見テノ通リノ
キモイ生物ダヨ…
……!!
ズ…ズズ…
オマエ
ヲー……

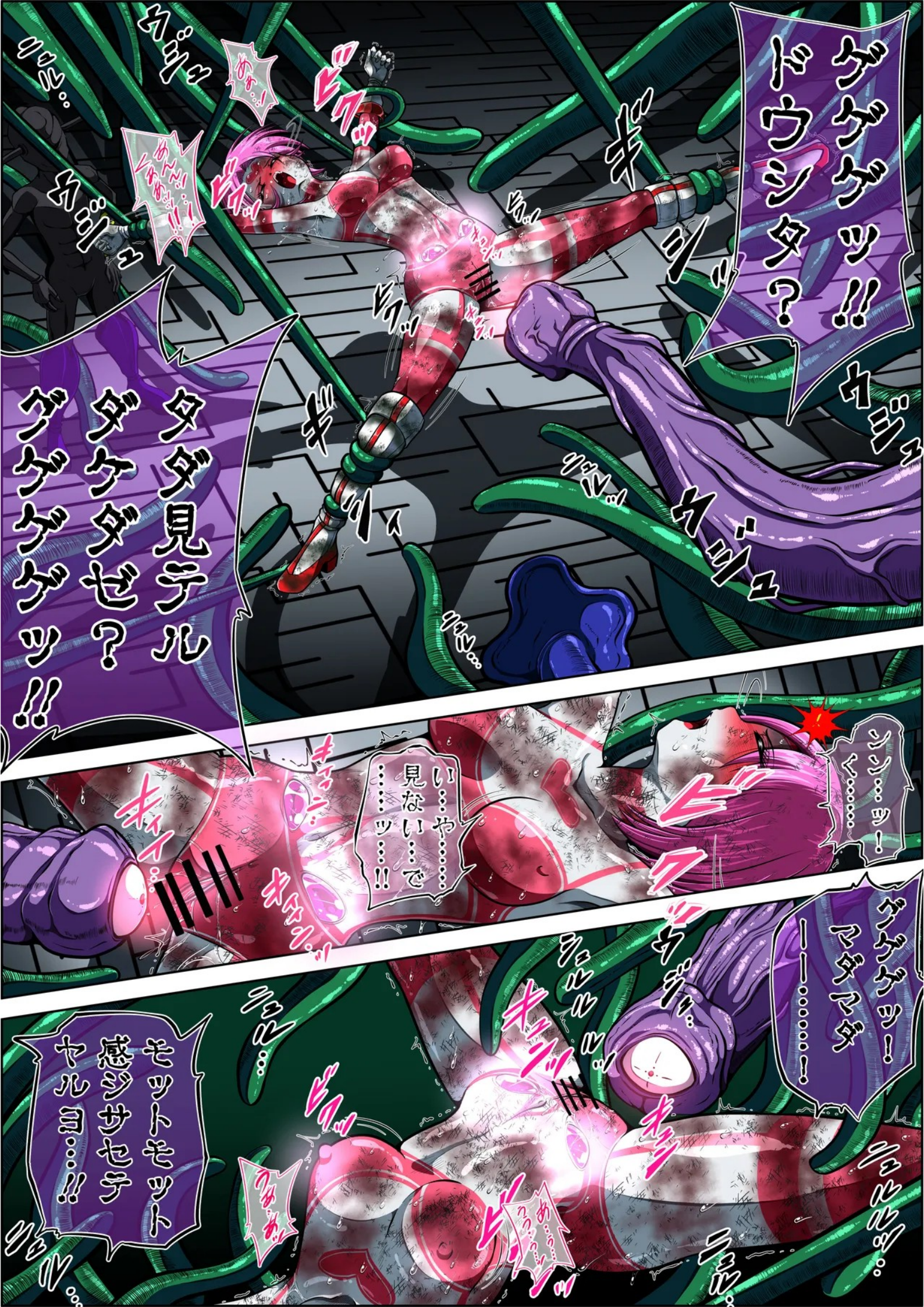

苦シメ…
ーー…
イタブリ
ーー…
ギン!!
あ…ぁ…!!
あぁあっ…!!
モテアソビ
ーー…
犯スタメニ
生マレタ…ナ
キィィ…
グゲゲッ…
ソンナ目的？
十分ダロ？
ゲゲッ！
…ッ…
バカ…な…
そ…そんな…
ドクン
ドクン…
そんな目的…
で……っ…!!

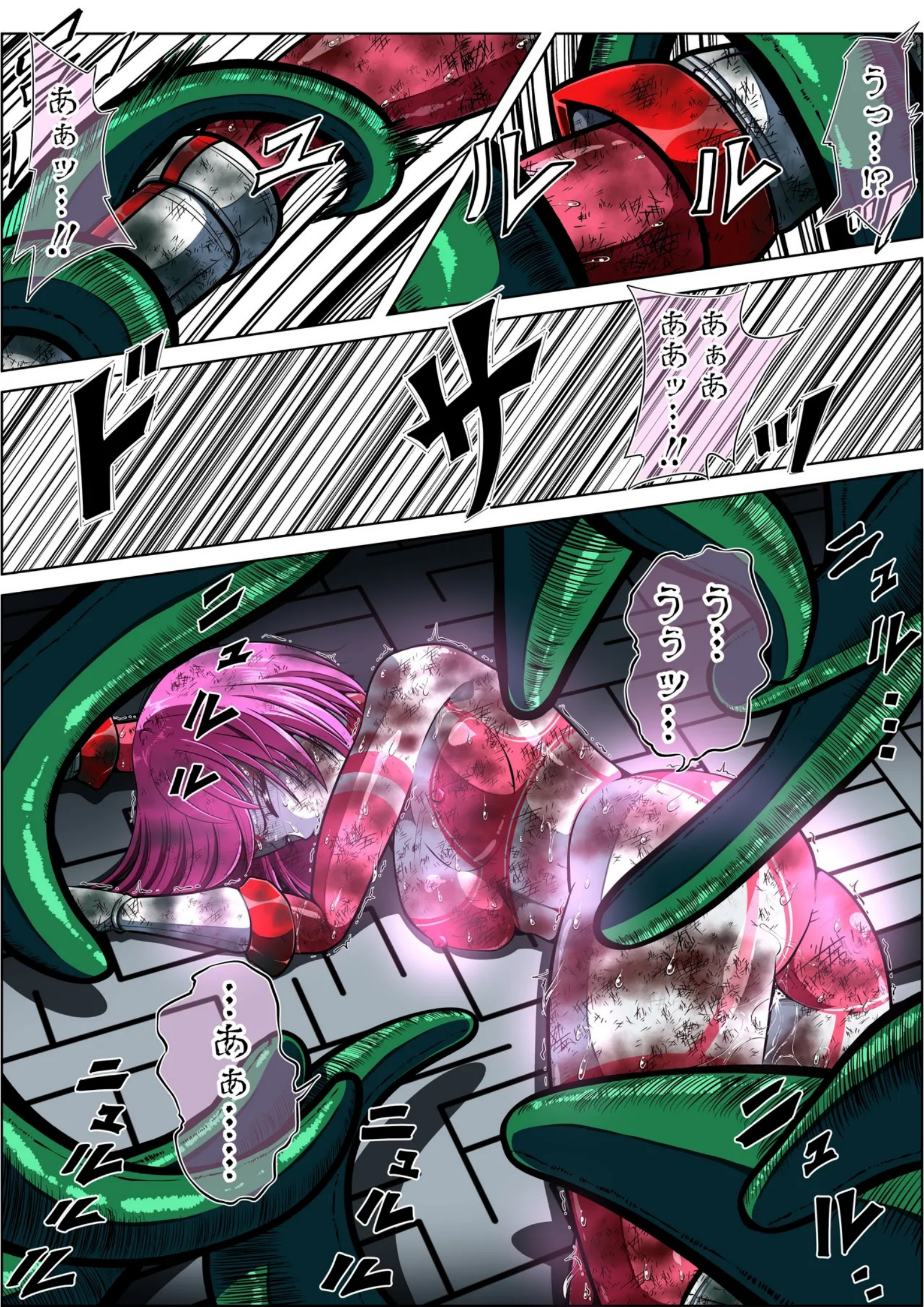

グゲゲッ!!
ダガヨ…、モウ
ヒトツ目的ガ
デキタンダ…!
大キナ目的ガ
ーー……
…ナ……!!
お…
大きな…
ーー……
ドクン
ドクン
目的……!?
姫
ズ
ズ
ズ…
『繁殖』
…だよ

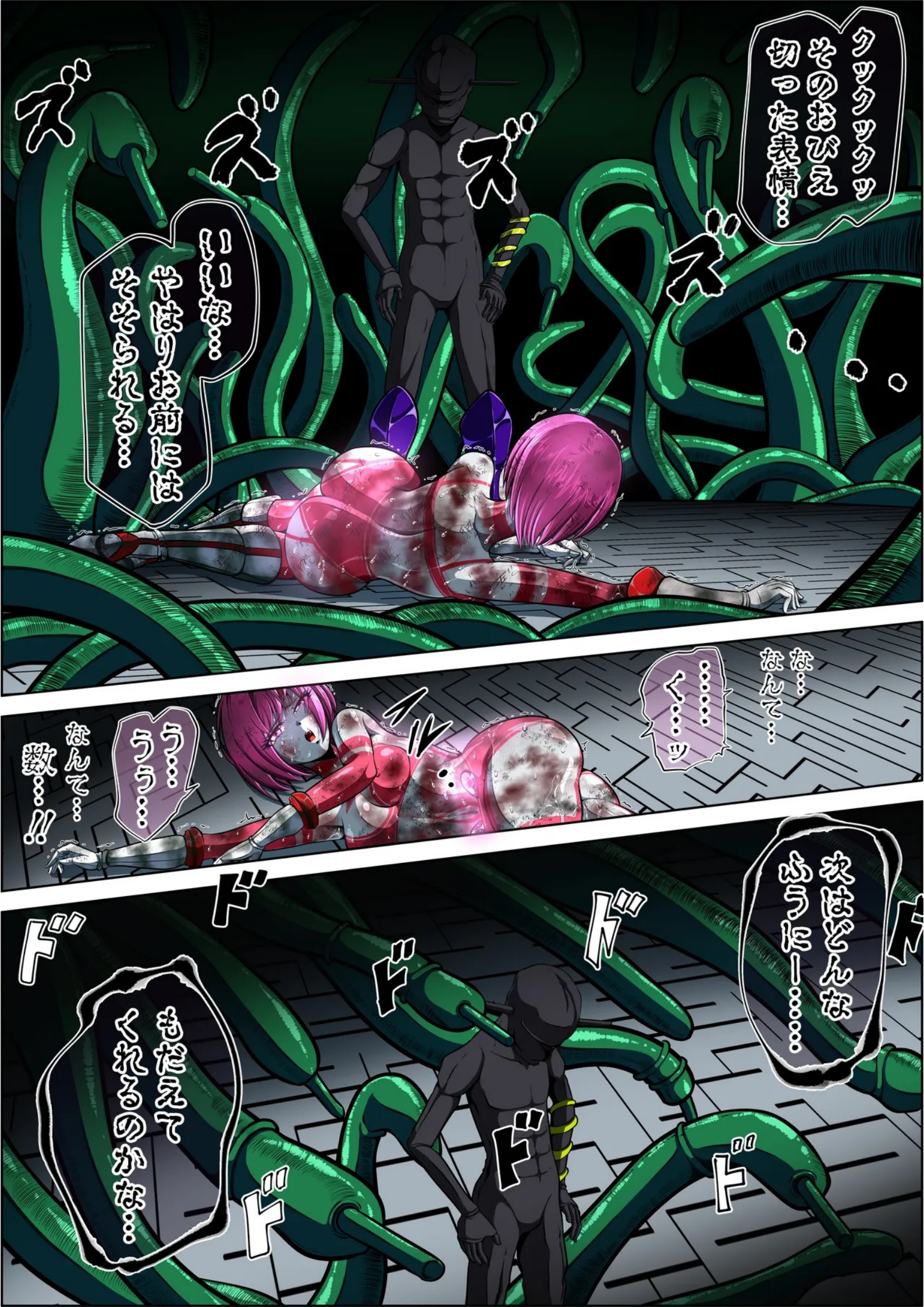


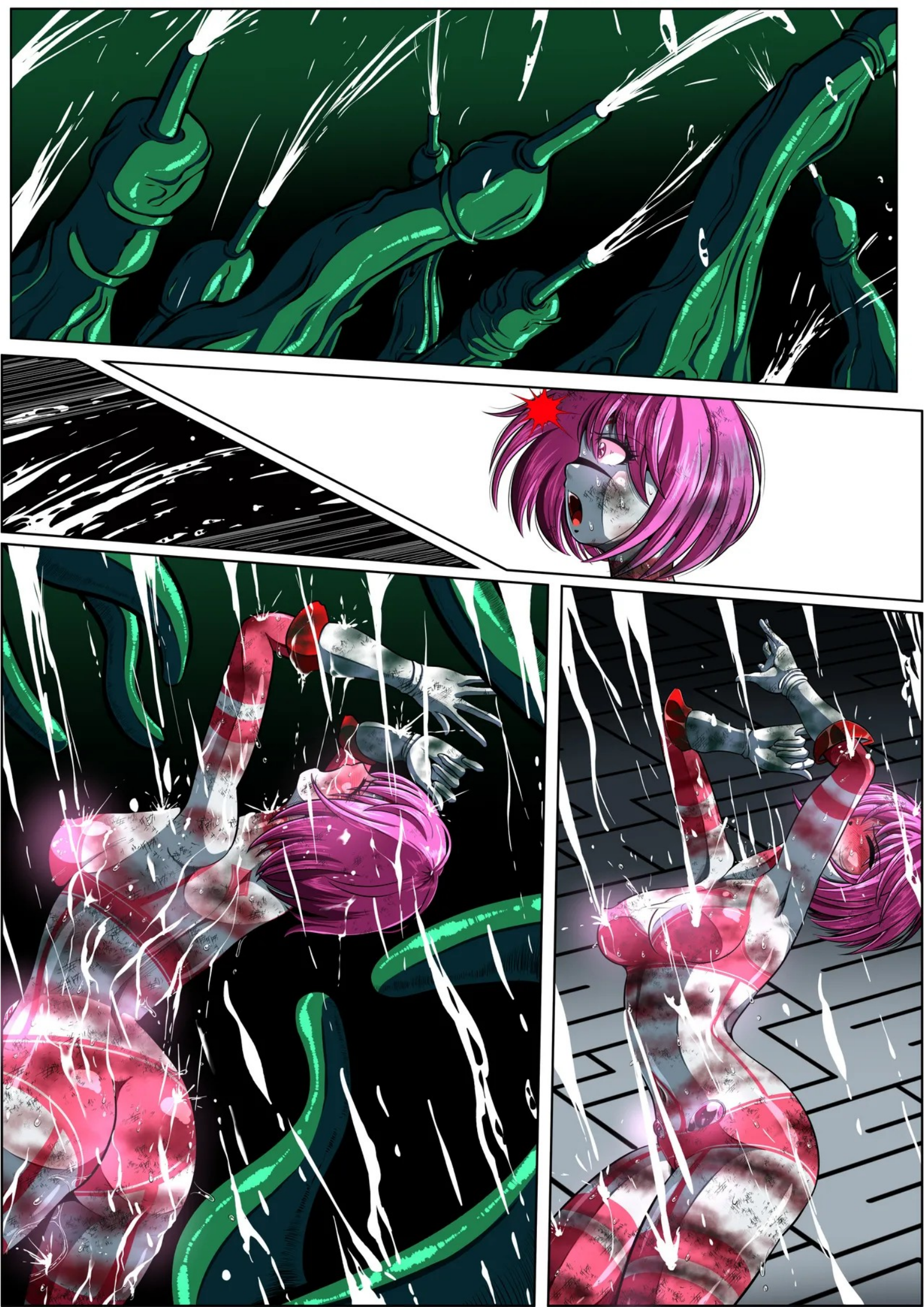

……
キィィィン…
キィィィン…
グ…グググッ…!!
グググッ…!!
……
な……
何…!?
ドクン
ドクン…
ドクン…
この感覚
はー…!?
ハァ…
ハァ…
キィィィン…

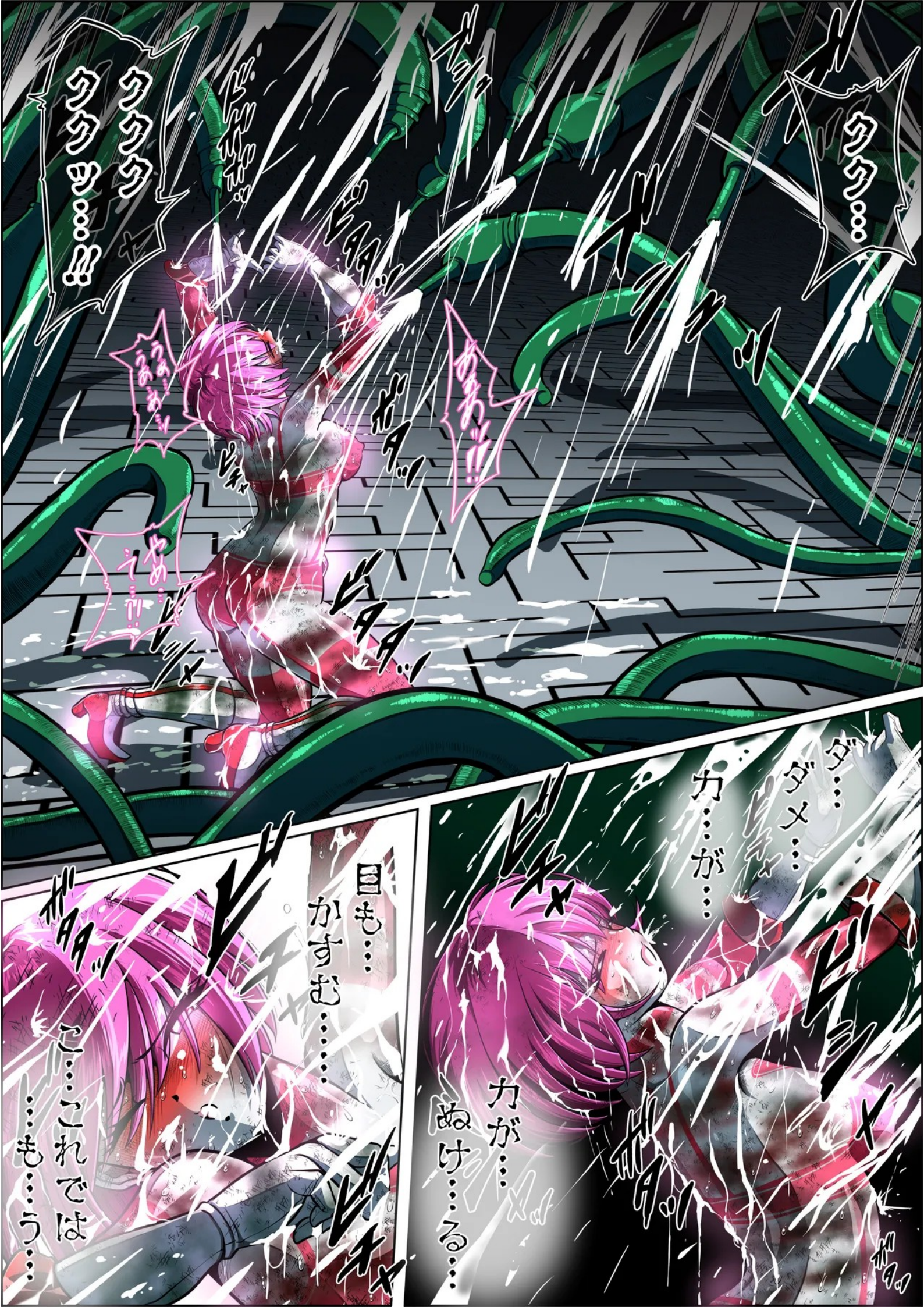

『凝視』
あぁん!!
あぁ!!
これだけでも
今のお前には
強烈に効く
だろうよ…!
あっ…あ…!!
あぁ…あッ…!!!
あぁあぁあぁあぁ
あぁあぁあ…あッ
!!!

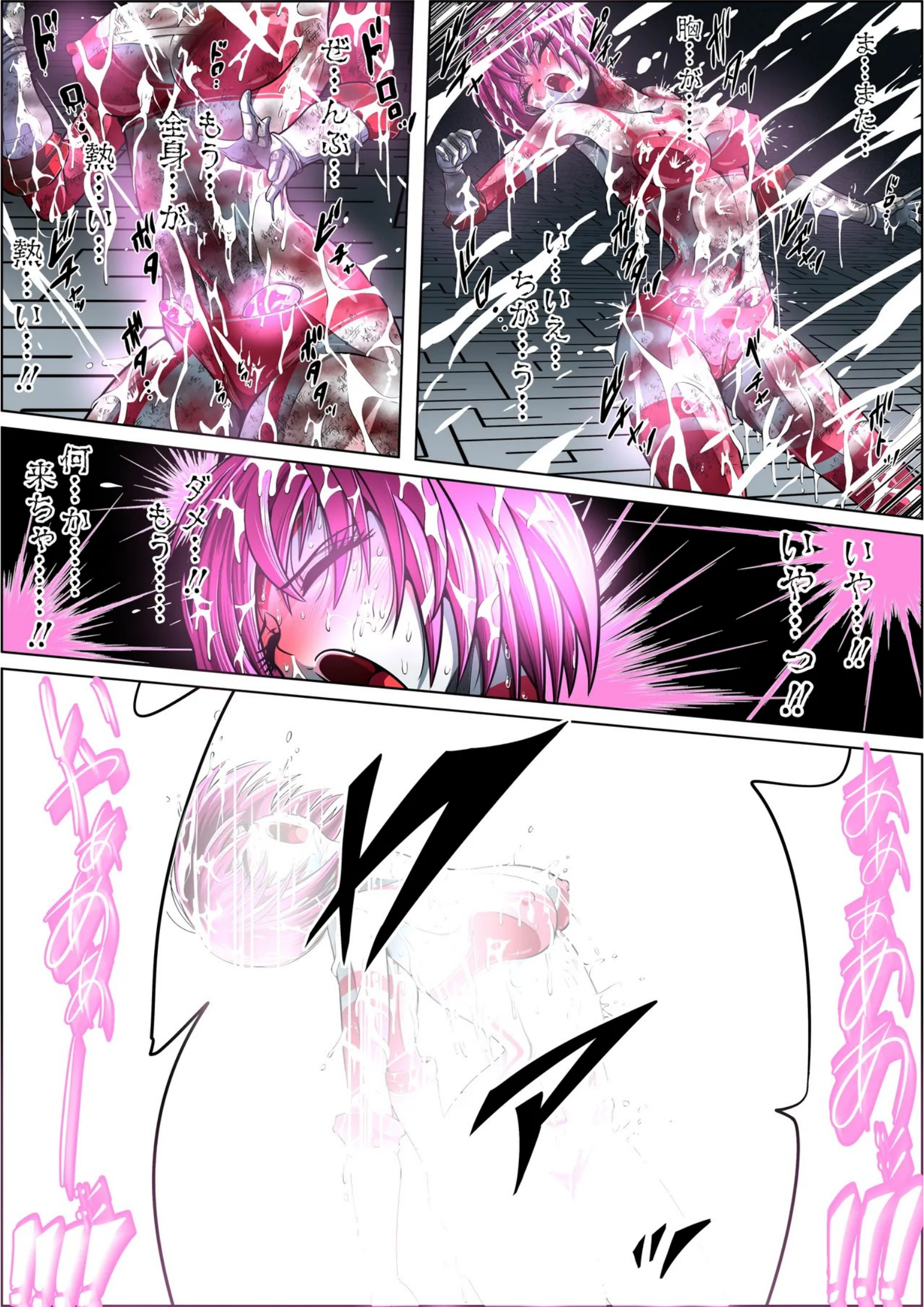

グググッ!!
ドウシタ?
ヴィ
ギッ
ビクッ
ビクッ
ギッ
ヴィ
ヴィ
ニュル…
ヴィ
ヴィ
ニュル…
ヴィ
ヴィ
ニュル…


うっ…!?
ルル
ヌル
あぁッ…!!
ドサッ
あぁあぁあッ…!!
ニュルル…
う…
ううッ…
ニュルル
…あぁ……
ニュルル
ニュルル
ニュルル
ニュルル


クックックッ
そのおびえ
切った表情…
ズ
ズ
ズ
いいな…
やはりお前には
そそられる…
な…
なんて…
……
く…ッ
う…
うう…
なんて…
数…!!
次はどんな
ふうにー……
ド
ド
ド
ド
ド
もだえて
くれるのかな…




クク…
ドガ
ビタ
ビチャ
あぁ!!
ボタッ
ビチャ
やめ…て!!
ビタタッ
ビチャ
ビチャ
クククク…
ダ…ダメ…
力…が…
ビチャ
ビチャ
力が…
ぬけ…る…
ビチャ
ビチャ
目も…
かすむ…
ビチャ
ボタッ
こ…これでは
…も…う…
ビチャ


ま…また…
胸…が…
ビチャ
ガタッ
ビチャ
ビチャ
ドロ…
ビチャ
ガタッ
い…いえ…
ちが…う…
ビチャ
ビチャ
ガタッ
ドロ…
ビチャ
ビチャ
ガタッ
ぜ…んぶ…
ビチャ
ドロ…
もう…
全身…が
ガタ
ガタ
ドロ…
熱…い…
ビチャ
ビチャ
熱…い…!!
ガタ
ガタ
いや…!!
いや…っ!!
ダメ…!!
もう……
何…か…来ちゃ…!!
ああああ
ああああ
ア
ア
ア

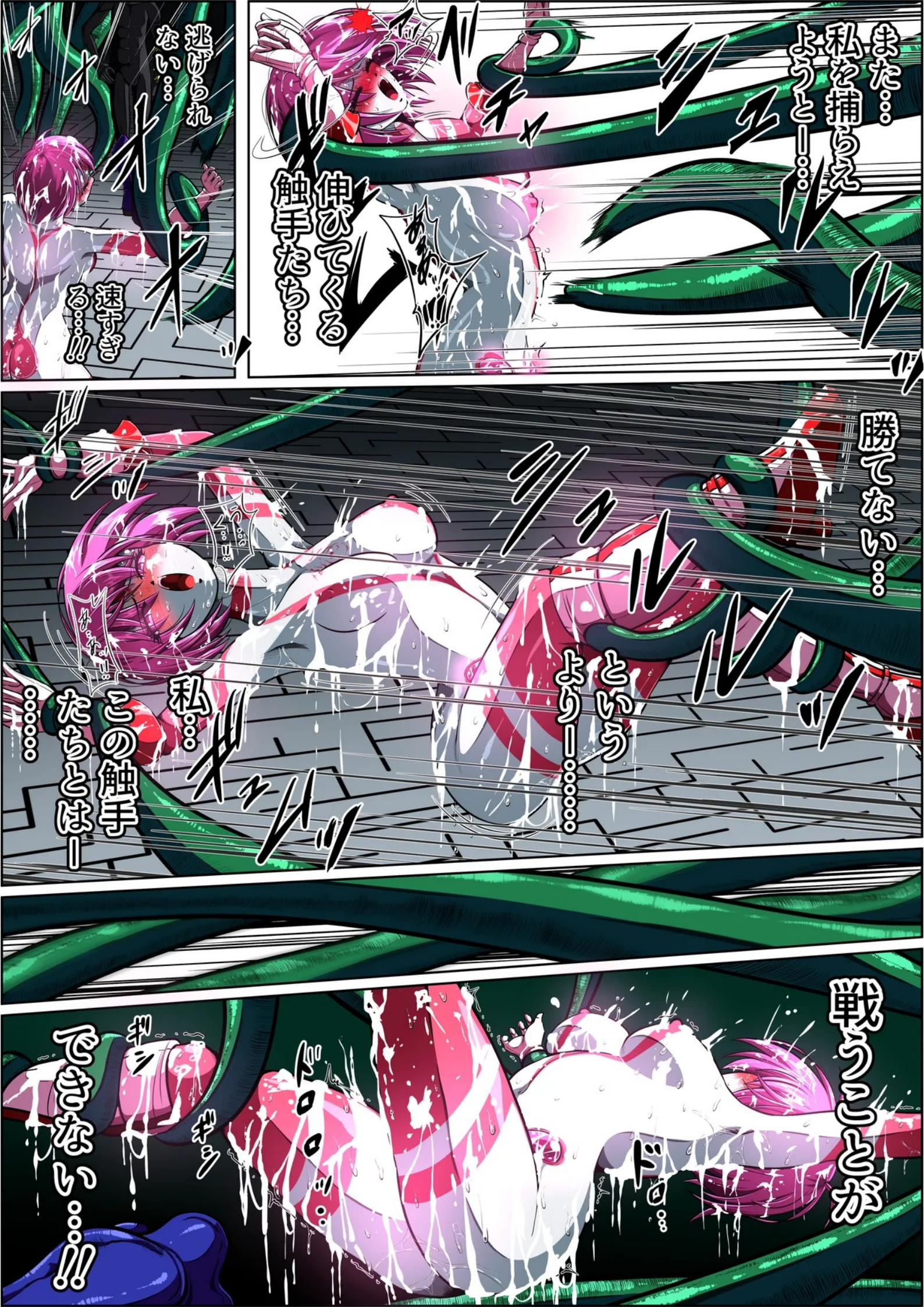
フィオラの
カラダから
桃色の
まばゆい光が
発せられる

このとき、
彼女は感じて
いた

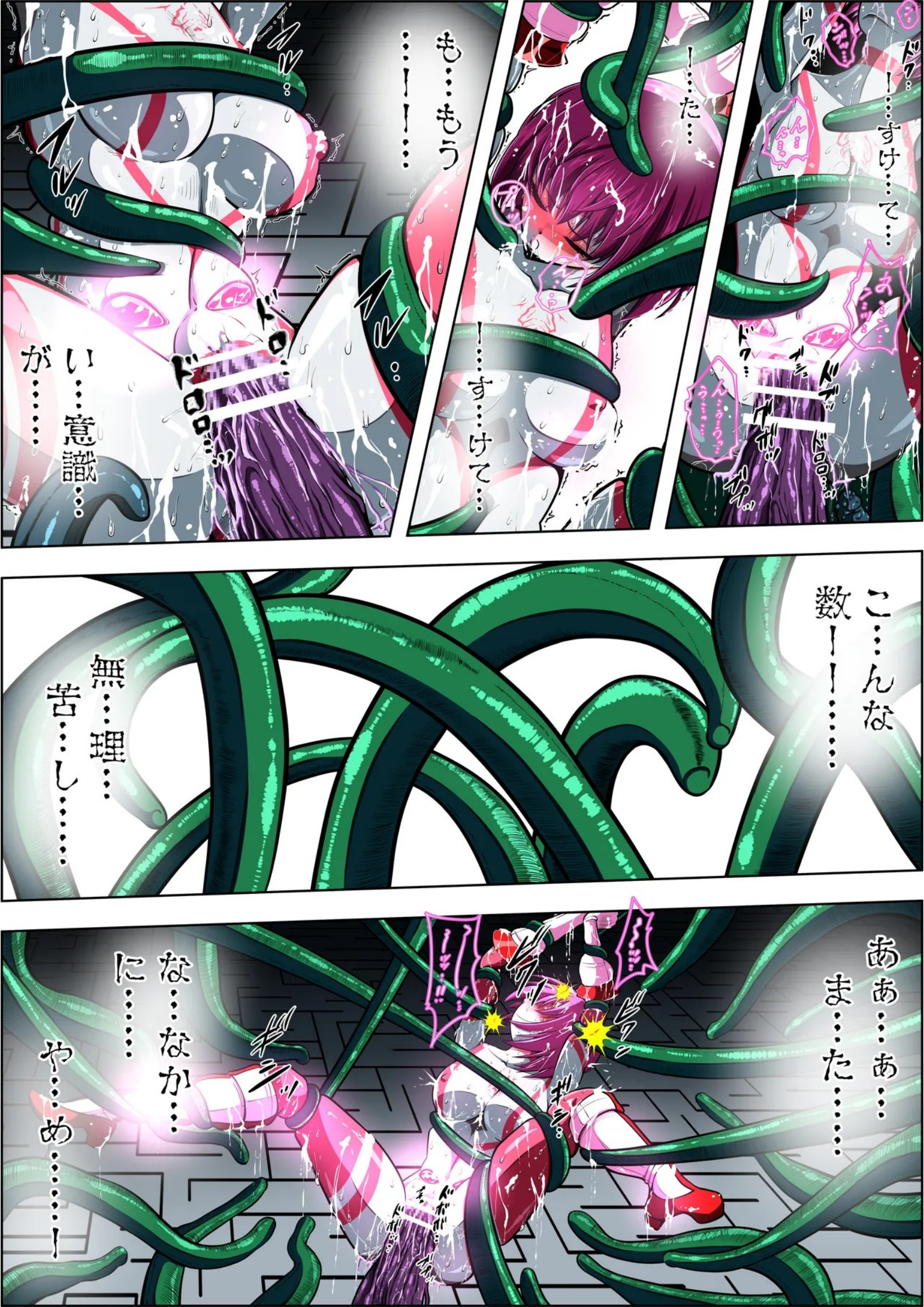
全身から力が
抜けていく
感覚と―・・・

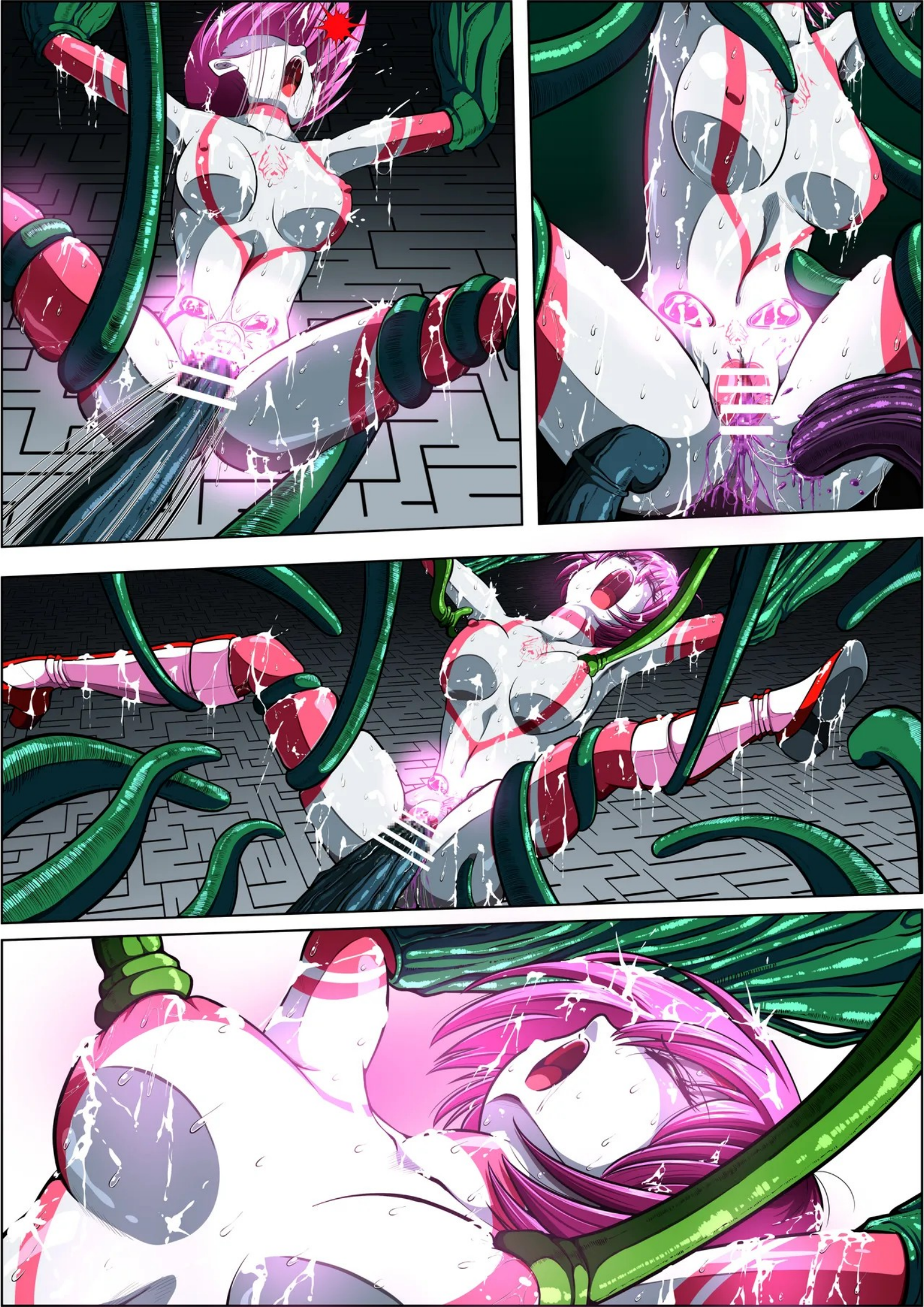
目の前が
真っ白に
なるような

凄まじい
快感を・・・！

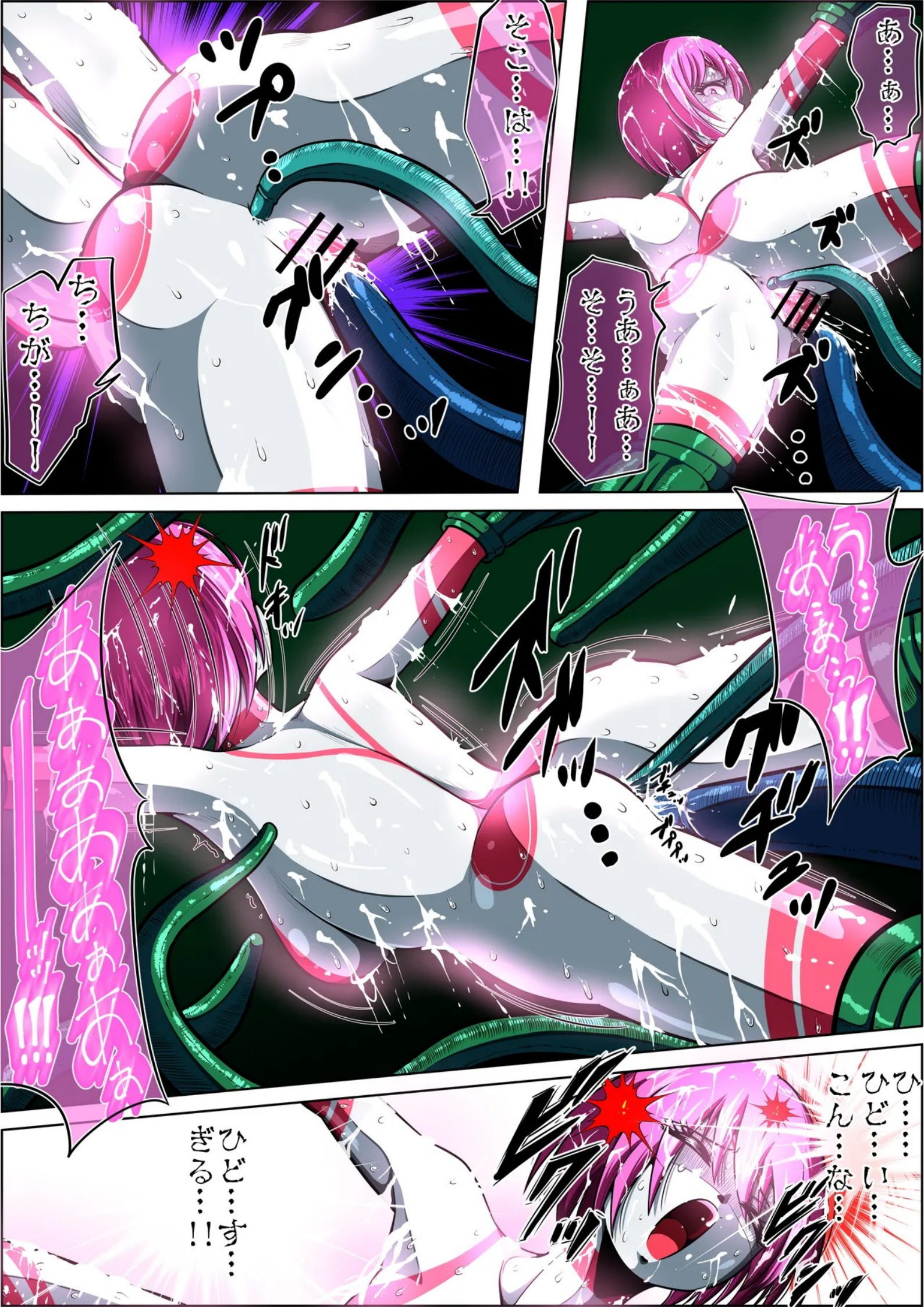

また…私を捕らえようとー…
シュルル
チャ
伸びてくる触手たち…
逃げられない…
オオオ
速すぎる…!!
勝てない…
シュルルルル
というよりー……
私…この触手たちとはー……
ドドドド
戦うことができない…!!
ギシ
ギシ

ククク…フィオラよ…
抵抗できまい――……!!
その触手どもはいわばお前の『天敵』なのだ
こいつらの前ではお前は『獲物』なんだよ
皇女でも戦士でもなく……な
ただし繰り返すが――…
ドクン
ドクン
ドクン
ズズズ…
ビク
グーー…
あぁ…!!
やめ…
そこっ…!!
はぁ…!!


ドク…
…すけ…て…
…た…
…す…けて…
も…もう
……ーー…
ドロ…
ドロロ…
い…意識…
が……
こ…んな
数ーー……
無…理…
苦…し……
あ…あ…あ…
ま…た……
な…なか…
に……
や…め……ー



う……!?
ああっ……!!
ズズ……
!!!
あぁっ……!!!
クク……!!
お…奥まで……!!
ま…また挿入(はい)って……!!
ズズ…
ミチッ…
ミチ…
無遠慮に…!!!
く…苦し…
また中に……!!!
あ…あふ…れる…!!!
ズプ…
ブチュ…


あ…あ…
ズズ…
うあ…あぁ…
そ…そ…!!
そこ…は…!!
ズン…!
ち…ちが…!!
ドギ…!
ぁぁぁぁぁぁ!!!
ビク!
ひ…ひど…い…こん…な…
ひど…す…ぎる…!!

やめてッッ!!

もう…っ…

もう…ッ…
やめ…てッ!!

ビクッ

もう…出さないで…ッ…!!!

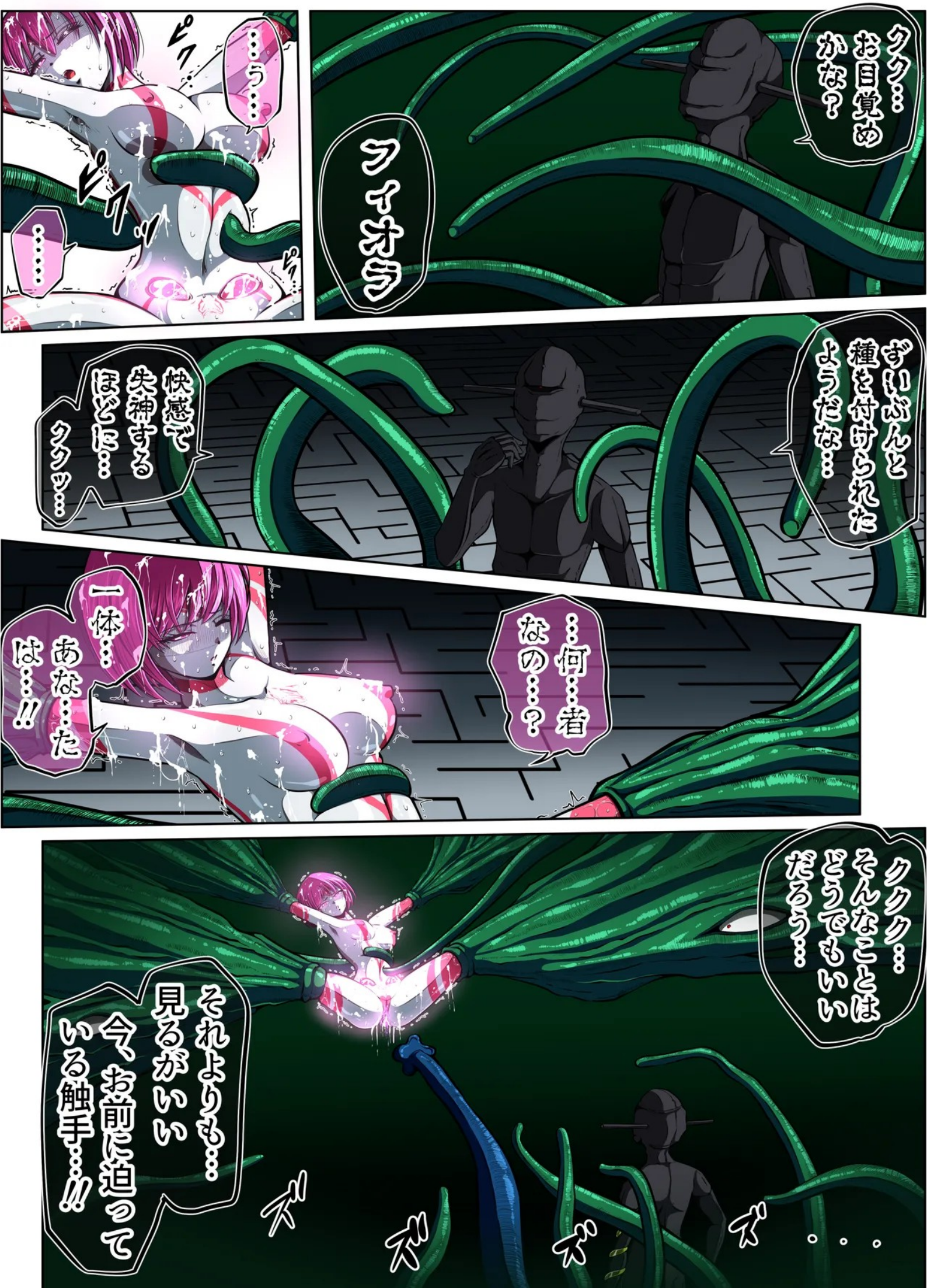
あああああーーーーッッ!!!!

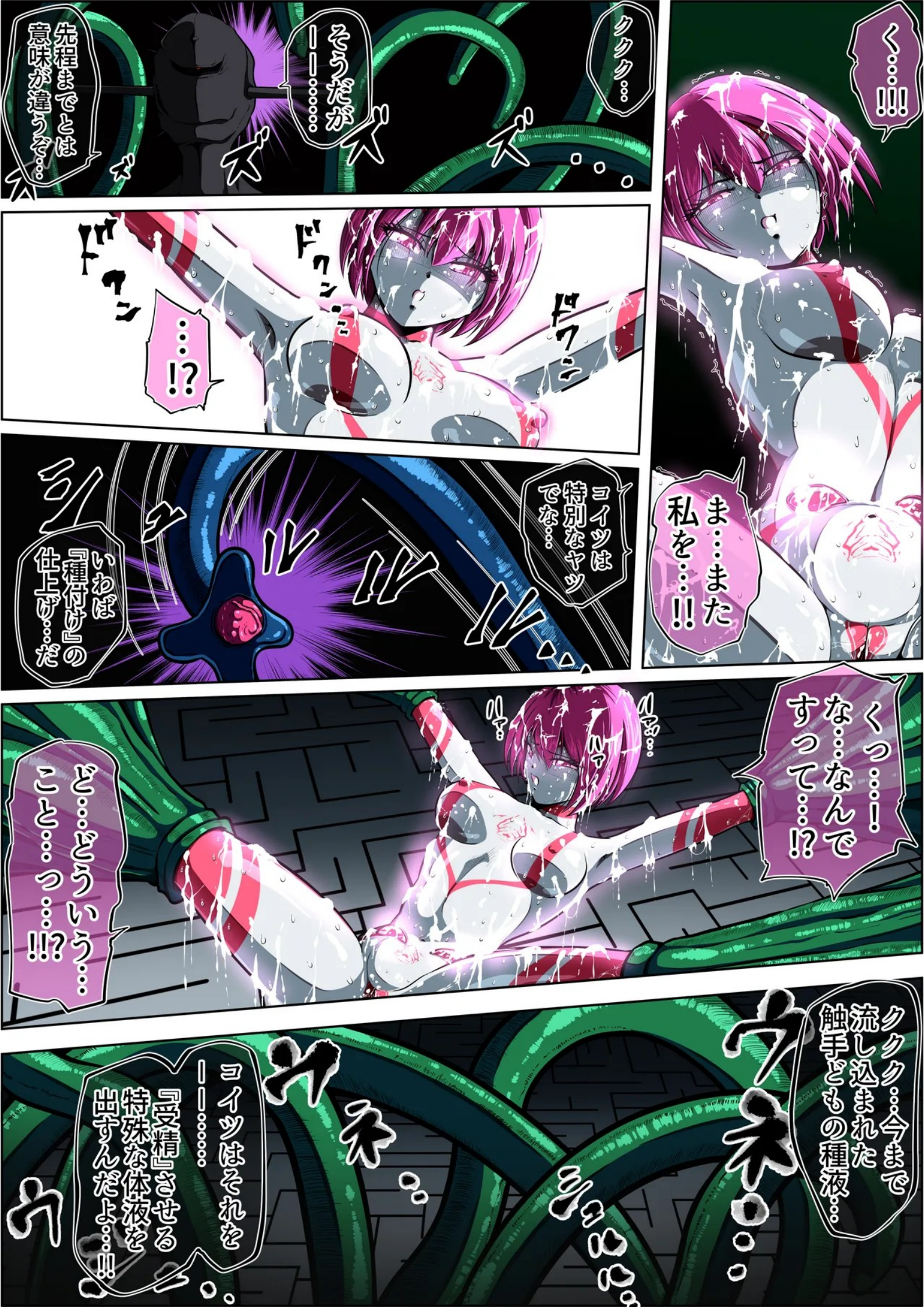
ドクッ

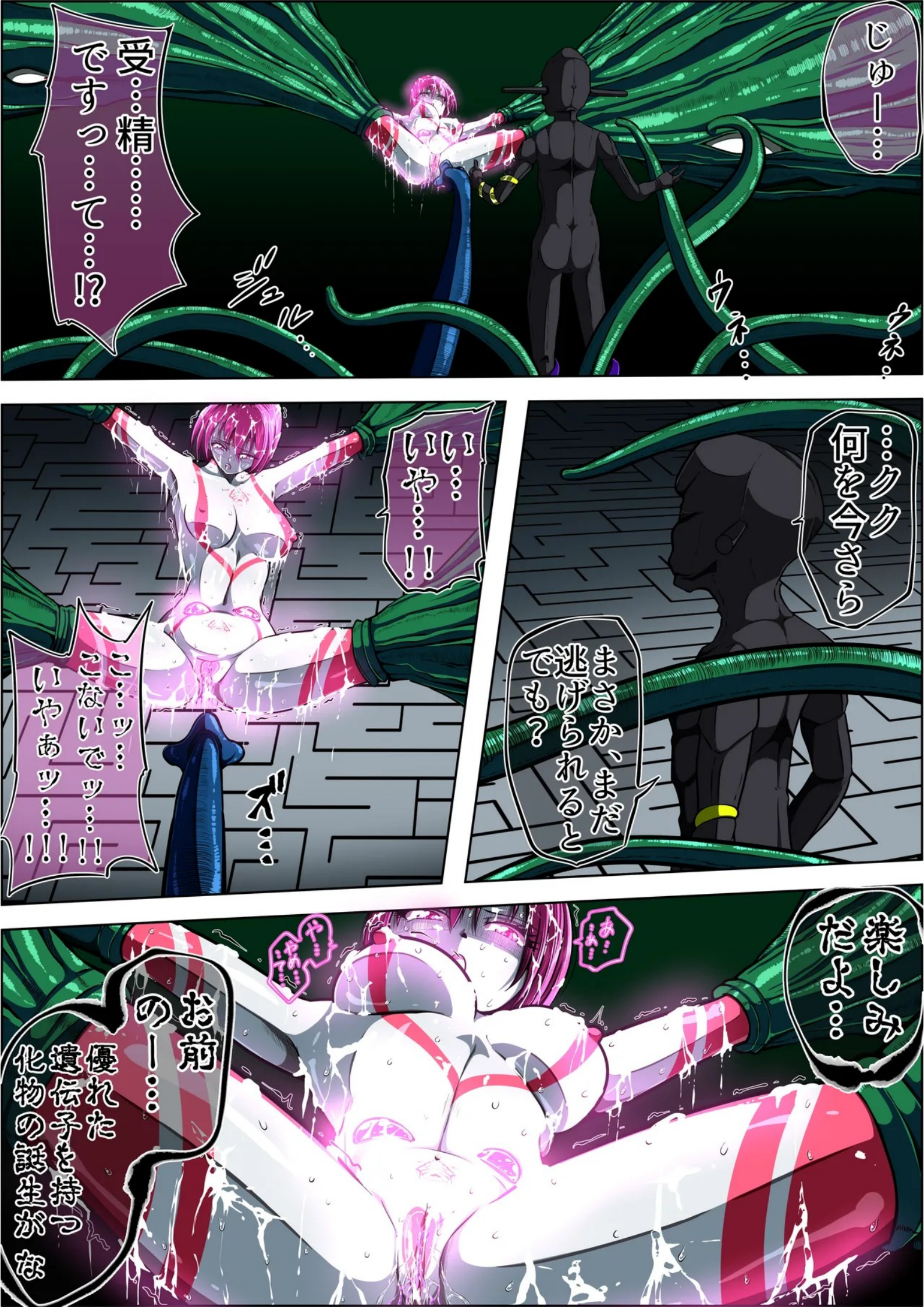
ドププッ

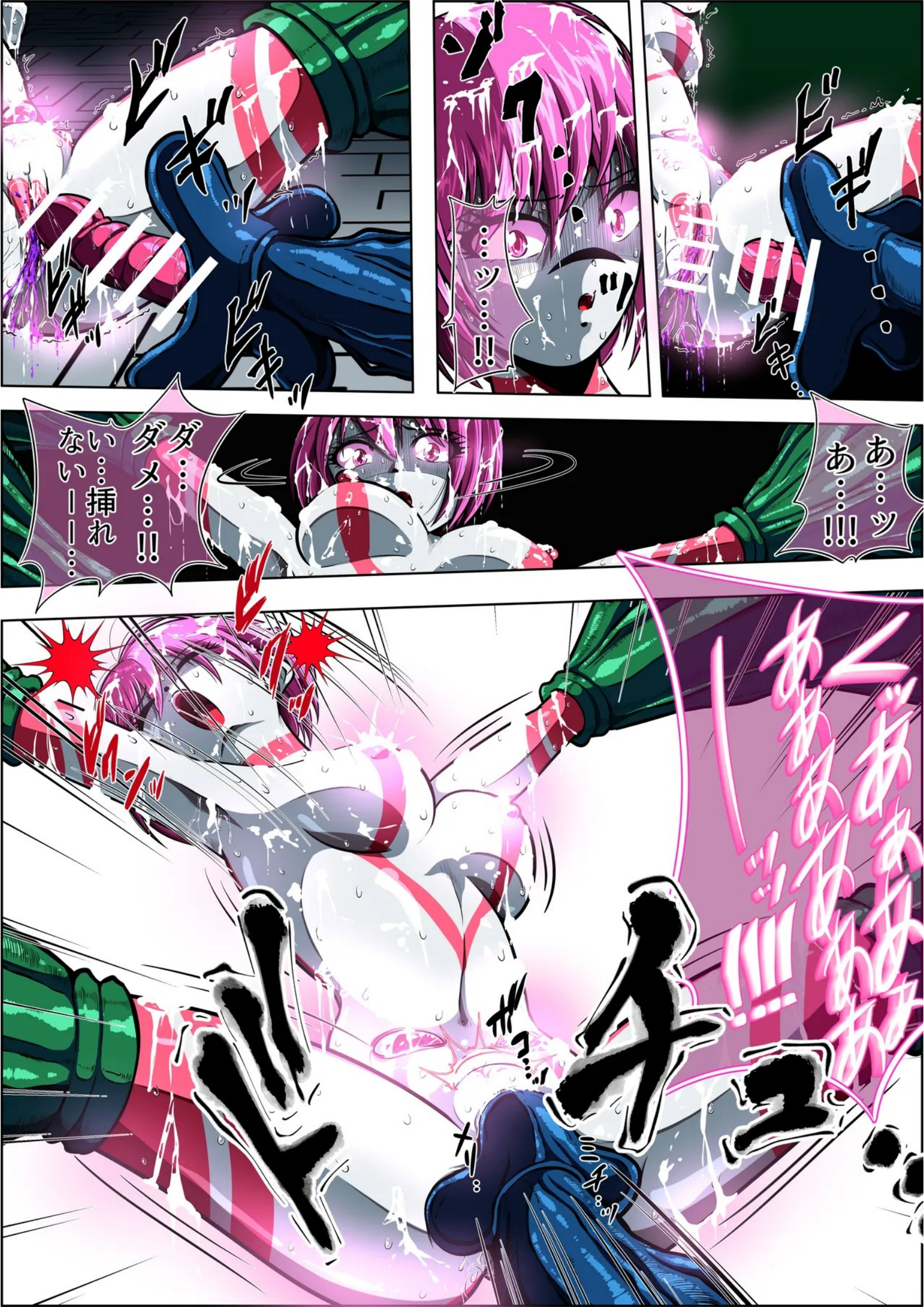
ドプッ

ウゾウゾ
ヴィィィ…
ヴィィィ…
ヴィィィ…
ヴィィィ…
ヴィィィ…
ビクッ…
ビルルッ
ビチャ…
ン…
……ぅぅ…
ドロ…
ドロォ…
グチュ…


ククッ…お目覚めかな？
フィオラ
…う…
ピク
ピク
……
ずいぶんと種を付けられたようだな…
快感で失神するほどに…ククッ…
…何…者なの…？
一体…あな…たは…!!
ククク…そんなことはどうでもいいだろう…
それよりも…見るがいい今、お前に迫っている触手…!!
ズ
ズ
ズ…


く…!!!
ククク…
そうだがーー……
先程までとは意味が違うぞ…
ドクン
ドクン
…!?
ま…また私を…!!
コイツは特別なヤツでな…
いわば『種付け』の仕上げ…だ
ハァ…
ハァ…
くっ…!な…なんですって…!?
ど…どういう…こと…っ…!!?
ククク…今まで流し込まれた触手どもの種液…
コイツはそれをーー……『受精』させる特殊な体液を出すんだよ…!!!


じゅー…
受…精……
ですっ…て…!?
ジュル…
ウネ…
ウネ…
…クク
何を今さら
まさか、まだ逃げられるとでも?
い…いや…!!
こ…ッ…こないでッ…!!いやあッ…!!!
ズ…
楽しみだよ…
お前のー…優れた遺伝子を持つ化物の誕生がな
あ!あー
やめ…やめ…

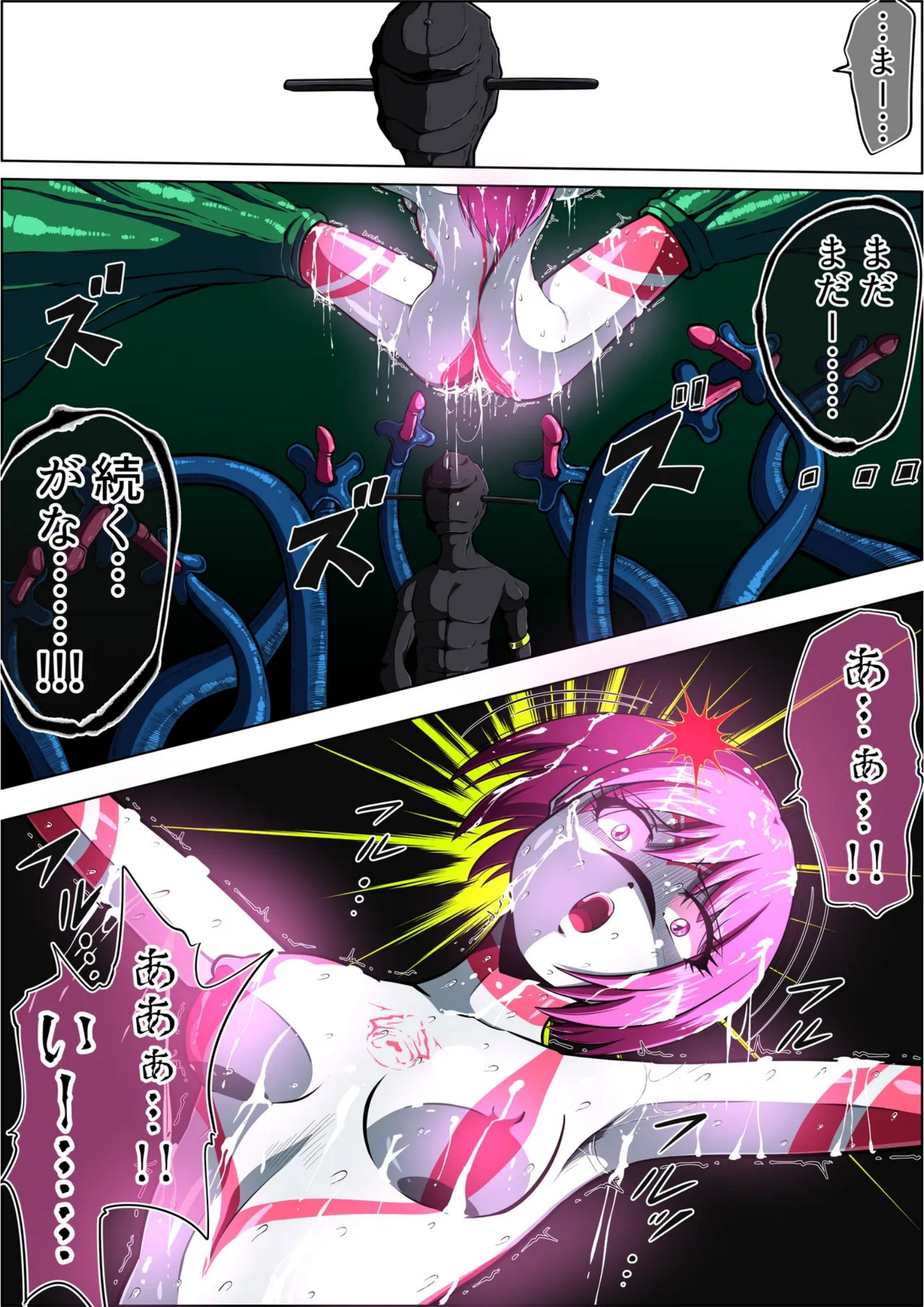

ビギッ
ビギッ
ビギッ
ゾク…
…ッ…!!
ビギッ
あ…ッ
あ…!!!
ダ…ダメ…!!
い…挿れ
ない!!…
あああああ!!!
ガッ…!!
メリ…
ニチ…!!

う…あ…
あああッ…!!
ビク…
ビク…
くく…くる…!!
中で…大きく…!!
……!!
ドクン
ズク…
ドクン…
ビキ…
ビギ…!
いやあああああ
あああああああッ
!!!
ビクン!!
ビクン!!
ビクン!!

ク…出されたな……
喜べ…フィオラこれでお前はーー……
ドロ…

確実に
触手どもの「母」となったぞ…!!!
ビュルルル…
ビュルルル…

う…うあ…あ…あ…
フル…
フル…
く…うっ…
ドロ…
あ…あ…うう…うっ…


…ま―…
まだ
まだ―……
ズ
ズ
ズ
ロロロロ
続く…
がな……!!!
あ…あ…!!
フル…
フル…
フル…
あああ…!!
いい―……

いやあああああ
あーーーーッッ!!
やめてえええ
ーーーッッ!!!

1匹ー…
また1匹とーー…
フィオラからはい出てくる触手の幼生…
その度、フィオラから抑えきれない喘ぎが発せられる…!!
これでーー…総数合わせて19匹……!!!
フィオラはーー……
もはや完全に触手たちの苗床と化してしまった…

地獄は
終わった
ーーー…

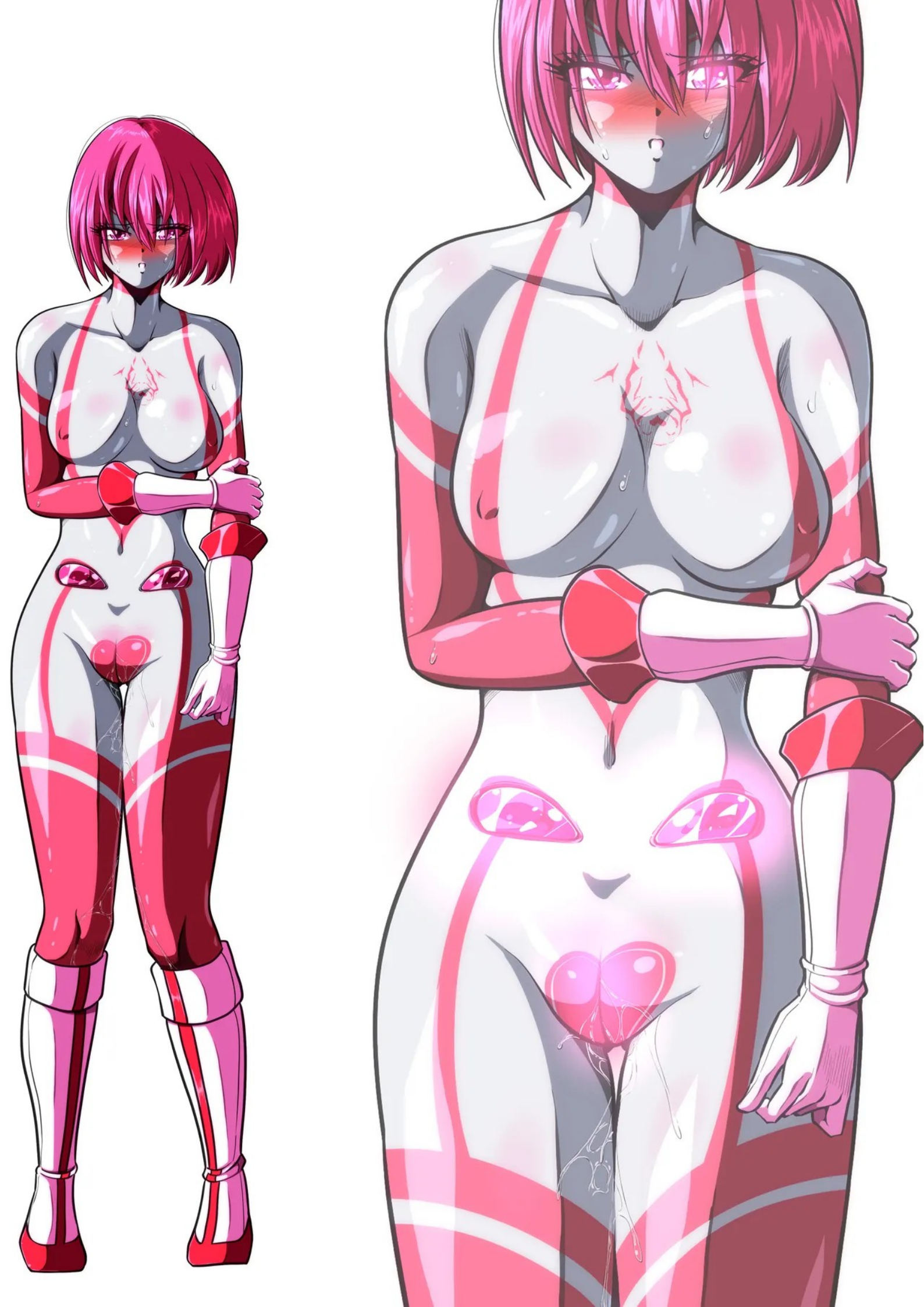
……
……

そう思ったのは
フィオラ姫…

彼女だけ
だった…!!!

……ン…
……ん…
ンン…？
…あ…ッ？
うあ…ッ!!
や…め……ッ!!!
わ…たし…
今…産ん…だ
ばか…り…!!
あああああ
あああッッ
!!!

ククク…
バカめ…!!
こんなもので
終わるわけが
なかろう
フィオラ姫…
お前はもう――…
触手からは
逃げられないの
だからな…!!!



ご覧いただき、
ありがとうございます！
shadeです。

今年の2作目、
いかがだったでしょうか？
シンプルに触手責めにされる
姫を描きたくて…

今回は中出し要素、望まぬ妊娠、そして
出産シーンなどかなりマニアックな
作品となりましたが、気に入って
いただけたら嬉しいです^_^
※そもそもワタクシの作品、全部
マニアックだろとは思いますけど…w

さて、次は本編の『フィオラ クライシスV』を
描いていきます！ファンティアとCi-enで
更新してますので、ぜひそちらも覗いてみて
ください！

ではでは、また次回作で
お会い出来ますように…！
このたびは本当にありがとうございました！

2023／10 shade